

Pleiades GX
FMT-N70CE50M-2
オペレーションマニュアル

本製品（ハードウェア及びソフトウェア）が
外国為替および外国貿易管理法の規定により
戦略物質等（または役務）に該当する場合には
日本国外に輸出する際に日本国政府の輸出許可
が必要です。
許可手続き等にあたり特別な資料等が必要な
場合には、お買い上げの販売店またはお近くの
当社営業拠点にご相談ください。

Ethernet は米国 XEROX Corporation の登録商標です。

WindowsCE は、米国 Microsoft Corporation の米国およびその他の国における登録商標です。

その他一般に会社名、および製品名は各社の商標または登録商標です。

ご注意

- (1) 本書の内容の一部または全部を無断転載する事は禁止されています。
- (2) 本書の内容に関しては将来予告なしに変更することがあります。
- (3) 本書の内容で、万一不審な点や誤り、記載漏れなどでお気づきの点がございましたら、弊社営業所までご連絡ください。
- (4) 当社では、本装置の運用を理由とする損失、逸失利益等の請求に関しましては、
(3) にかかわらずいかなる責任も負いかねますので、あらかじめご了承ください。

目 次

1. はじめに	1
2. 概要	2
3. インストールソフトウェアの説明	3
3. 1 内蔵FROMの内容	3
3. 2 Windowsフォルダの内容	4
3. 3 データ保存の際の注意点	5
4. 装置の基本操作	6
4. 1 立ち上げ操作	6
4. 2 アプリケーションの起動方法	8
4. 3 終了操作 (シャットダウン)	10
4. 4 画面の切り替え方法	10
5. 装置の設定	11
5. 1 基本的な設定	11
5. 1. 1 タッチパネルのスタイラス設定をするには	12
5. 1. 2 日付、時刻を設定するには	13
5. 1. 3 画面を一定時間で消す場合には	14
5. 1. 4 音のボリュームを設定するには	14
5. 1. 5 タッチパネルのタッチ音を設定するには	15
5. 1. 6 画面の輝度を設定するには	15
5. 1. 7 レジストリを保存するには	16
5. 1. 8 タスクバーを消すには	18
5. 1. 9 ショートカットを作成するには	19
5. 2 有線の設定	21
5. 2. 1 IPアドレスの設定	21
5. 2. 2 通信の確認	22
5. 2. 3 ファイル共有	22
5. 2. 4 アプリケーション自動起動	24
5. 3 無線の設定	25
5. 3. 1 IPアドレスの設定	25
5. 3. 2 ZeroConfigによる無線の設定	25
5. 3. 3 通信の確認	28
5. 3. 4 ファイル共有	29
5. 3. 5 無線自動起動	30
5. 4 アプリケーションソフトの格納	32
6. プログラム詳細	34
6. 1 コマンドプロンプト	34
6. 2 コントロールパネル	36
6. 3 無線 LAN 設定ツール (ZeroConfig ツール)	39
6. 4 無線 LAN 設定ツール (wzctool)	44
6. 5 BATCMD.EXE	47
6. 6 Launcher へのアプリケーション登録方法	50
7. 装置固有のインタフェース	51
7. 1 COMポート	51
7. 2 無線	51

付録1 ActiveSync の使用方法.....	52
付録2 ターミナルサービスへの接続.....	56
付録3 Citrix Presentation Server への接続.....	59
付録4 アプリケーション開発	63
付録5 注意点.....	65
使用許諾契約書.....	67

1. はじめに

本マニュアルは Pleiades GX (FMT-N70) の使用方法、設定方法、その他注意事項について解説します。
なお、本マニュアルとともに、装置に添付された「Pleiades GX **FMT-N70CE50M-2** ユーザーズマニュアル」
を必ずお読みください。

(1) 参考 WEB サイト

- ・ Microsoft 社ホームページ <http://www.asia.microsoft.com/japan>
- ・ WindowsCE <http://www.microsoft.com/japan/windows/embedded/ce50/default.msp>
- ・ WindowsCE ファン <http://www.wince.ne.jp>

2. 概要

Pleiades GX はマイクロソフト社の組み込み用途向け OS である Windows CE5.0 を搭載した端末装置です。

Windows CE はバッテリーバックアップされた RAM 上で動作させることを意図した OS であり、電源 OFF の概念がありません。このため環境設定等を RAM 上以外に保持する手段を持っていません。したがって電源 ON 時のネットワーク自動接続や、アプリケーションの自動起動をさせる場合には、通常組み込む側でそのつど OS のカスタマイズが必要となります。

一方 Pleiades GX では、業務開始時に電源を ON し、ネットワークへ自動接続したり、専用アプリケーションを自動起動したりすることを想定した端末であり、RAM のバッテリーバックアップ機能を持っていません。

Pleiades GX では業務用途で使用する場合のこうした Windows CE の弱点を補うと共に、ユーザーが作成する業務用途アプリケーションを簡単に搭載したり、またネットワーク接続等の設定やアプリケーションの自動起動も容易に行うことが出来る様なツールを提供致します。

本マニュアルではこうしたツール類の取り扱いを中心に業務用アプリケーション開発を支援する機能を中心に説明致します。

3. インストールソフトウェアの説明

3. 1 内蔵FROMの内容

Pleiades GX には、次のファイルが内蔵FROM (フラッシュ ROM) 内に格納されています。
内蔵FROMはフォルダ名 ¥NORFLASH¥ として表示されます。

表3. 1-1 内蔵FROMの内容

	ファイル名	内 容
1	BATCMD.EXE	設定ユーティリティ
2	BATCMD.BAT	上記設定ファイル
3	Launcher.exe	ランチャー
4	Launcher.dat	上記設定ファイル
5	ClearRegistry.exe	レジストリ出荷設定

各ファイルの説明

1. BATCMD.EXE : 設定ユーティリティです。
アプリケーションの自動起動をおこなう時に使用します。
コマンドを設定ファイルに記述し、このファイルを実行することで各種設定を行うことができます。
(5. 5項参照)
2. BATCMD.BAT : 上記設定ユーティリティで使用するファイルです。
MS-DOS の BAT ファイルのような記述を行い、Batcmd.exe を実行することで記述通りのファイルまたはシステムの設定を行います。
アプリケーションの自動起動は、このファイルに処理を記述することにより、実現できます。
記述するコマンドの詳細は、5. 5項を参照してください。
3. Launcher.exe : ランチャー (あらかじめ、ファイルに登録しておいたプログラムを一覧表示し、ボタン押下で起動させるソフトウェア) です。Launcher.dat に記載した実行形式のファイルを、ボタンを押すことで実行します。
4. Launcher.dat : ランチャー設定ファイルです。
このファイルに記載した内容が、Launcher.exe 実行時にボタンに登録されます。
記述する内容の詳細は、5. 6項を参照してください。
5. ClearRegistry.exe : レジストリ出荷設定用ファイルです。
Windows 固有の設定情報等を出荷状態に戻す場合に実行してください。
本プログラム実行後、電源OFF/ONすることにより、出荷状態に戻ります。

3.2 Windowsフォルダの内容

Windows フォルダには、電源投入時に Windows CE 本体のファイルが、RAM上に展開されてきた“dll”などのシステムファイルの他に、ユーティリティソフトウェアが格納されています。

Windows フォルダにファイルを追加することはできますが、Pleiades GX では電源再投入時に Windows CE 本体が再度展開される為、追加したファイルは消えてしまいます。従ってdll等のシステムファイルが Windows フォルダに必要な場合は、立上時に NORFlash フォルダからコピーするように、BATCMD.BAT に記述してください。

Windows フォルダ内の代表的なファイルを挙げます。

表3.2-1 Windows フォルダ内の代表的なファイル

	ファイル名	内 容
1	CMD.exe	コマンドプロンプト
2	Contorl.exe	コントロールパネル
3	Cetsc.exe	ターミナルサーバークライアントソフト
4	Explorer.exe	エクスプローラ
5	Iexplore.exe	ポケットインターネットエクスプローラ
6	Pword.exe	Microsoftワードパッド

各ファイルの説明

1. CMD.exe : Windows CE 上のコマンドプロンプトです。
4. 5項に示すことがコマンドラインから行うことができます。
2. Control.exe : コントロールパネル起動プログラムです。
詳細は5. 2項を参照してください。
3. Cetsc.exe : ターミナルサービスに接続するための、リモートデスクトップ用クライアントです。
Windows サーバーのターミナルサービスの機能を利用する事ができるようになります。
4. Explorer.exe : ファイル操作 AP です。Windows のエクスプローラのような操作が可能です。
5. Iexplore.exe : ポケットインターネットエクスプローラです。ブラウザとして使用できます。
6. Pword.exe : Microsoft ワードパッドです。テキストファイルの編集用エディタとして使用できます。

3.3 データ保存の際の注意点

内蔵FROM (NORFLASH フォルダ) には、約30MB の領域があり、アプリケーションプログラムや設定ファイルなどのデータを格納する事が可能です。この領域は、電源を切っても、データが保持されます。しかし、内蔵FROMは、書込み回数の制限 (100, 000回) があり、頻繁にデータを書き込む用途には使用しないで下さい。

その他のフォルダ (マイデバイスにある、Windows、temp、my documents、profiles などのフォルダ) は、RAM領域にあります。RAM領域は、WindowsCEのOSのほか、アプリケーションプログラムがロードされ、実行される領域です。アプリケーションとしては、プログラム領域とデータ領域で、約80MBが使用できます。しかし、この領域はRAM 領域であり、電源を切ると揮発しますから、電源を切ったあとでも保存が必要なデータの格納領域としては使用しないで下さい。

CF や USB メモリを追加接続した場合は、[Memcard] や、[RemovableDisk] の名称で表示されます。頻繁にデータを書き込む用途の場合、追加したCFを使用してください。CFについても、一般的に100, 000 回の書込み回数の制限がありますから、頻繁に書込みを行う場合、一定期間毎に交換することを推奨します。

4．装置の基本操作

4．1 立ち上げ操作

Pleiades GX の立ち上げは次の手順で行います。

- ① 装置の電源をONします。Power ランプが点灯します。
(電源スイッチは本体左下裏側にあります。)
- ② 20～30秒後に、起動音と共に初期画面が表示されます。



図4．1－1 初期画面

- ③ Launcher の説明
出荷状態では、図4．1－1に示す「コントロールパネル」「コマンドプロンプト」「レジストリ出荷設定」の3個のボタンが Launcher（アプリケーション起動用ボタン）に登録してあります。押下するとそれぞれ、コントロールパネル、コマンドプロンプト、レジストリ出荷設定用のプログラムが立ち上がります。

④ アイコンの説明

出荷状態では、図4. 1－1に示すアイコンが表示されます。アイコンをダブルタップすると、対応する処理が実行されます。

表4. 1－1 アイコンの説明

	アイコン名	内 容
1	ごみ箱	削除されたファイルが一時的に入ります。但し本装置では、ごみ箱の内容は電源をOFFすると消えてしまいます。
2	マイデバイス	Windowsパソコンのマイコンピュータと同様のアイコン。本アイコンをダブルタップすると、本装置内の記憶媒体の一覧や、Windowsなどのフォルダ、コントロールパネルのアイコンが表示されます。
3	Internet Explorer	ポケットインターネットエクスプローラのショートカットです。アイコンをダブルタップすると、ポケットインターネットエクスプローラが起動されます。
4	Media Player	メディアプレーヤーのショートカットです。アイコンをダブルタップすると、メディアプレーヤーが起動されます。
5	Microsoftワードパッド	Microsoftワードのショートカットです。アイコンをダブルタップすると、Microsoftワードパッドが起動されます。
6	My Documents	My Documentsフォルダのショートカットです。アイコンをダブルタップすると、My Documentsフォルダが表示されます。
7	リモートデスクトップ接続	アイコンをダブルタップすると、リモートデスクトップ用クライアントが起動されます。

⑤ タスクバーの説明

タスクバーの表示を以下に説明します。

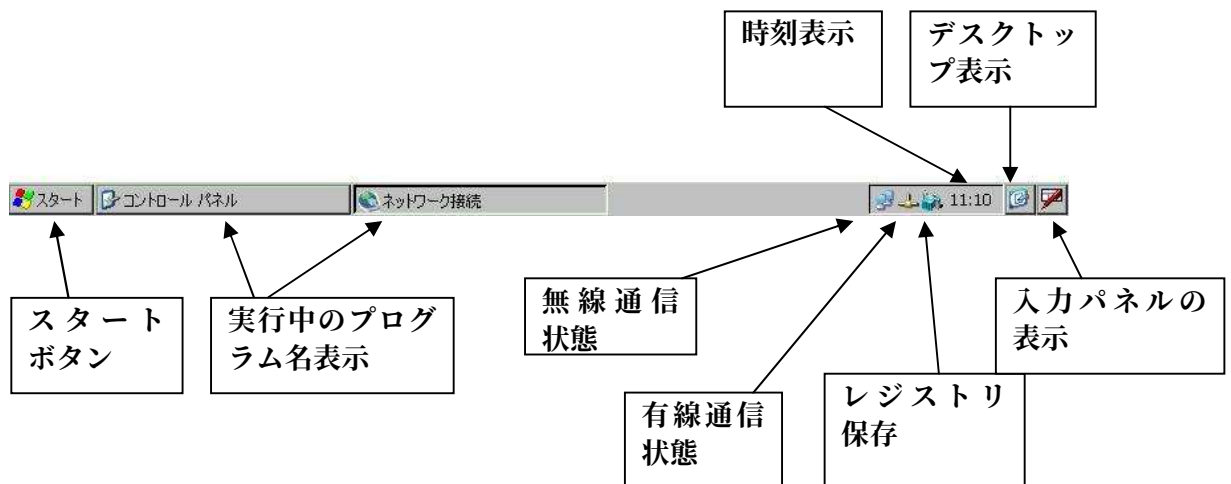


図4. 1－2 タスクバー

表4. 1－2 タスクバーのアイコンの説明

	アイコン名	内 容
1	スタートボタン	ボタンを押すと、プログラムや設定などのメニューがポップアップします。これによりプログラムの選択ができます。
2	実行中のプログラム名表示	本装置で実行中のプログラム名が表示されます。この表示をタップすると、対応するプログラムの画面に切り替えることができます。
3	無線通信状態	無線通信の状態が表示されます。 無線通信が不可能な状態のときは、このアイコンに赤い×が表示されます。このアイコンをダブルタップするとZeroConfigツール（無線の各種設定プログラム）が起動されます。
4	有線通信状態	有線通信の状態を表示します。有線通信が不可能な場合は、このアイコンに赤い×が表示されます。このアイコンをダブルタップすると、設定されたIPアドレスやサブネットマスクが表示されます。
5	レジストリ保存	本装置のレジストリは、自動的に保存されません。本アイコンをタップして表示された「OPEN」をタップするとレジストリバックアップツールが立ち上がります。 「CLOSE」をタップすると、このアイコンが消えます。 再度表示させる場合は、スタートメニューから「ファイル名を指定して実行」を選択し、「Saveregapp.exe」を実行してください。また電源再投入すれば表示されます。
6	時刻表示	時刻が表示されます。本アイコンをダブルタップすると、「日付/時刻のプロパティ」が表示され、日付、時刻の設定ができます。
7	デスクトップ表示	本アイコンをタップするとデスクトップ画面を表示します。
8	入力パネル表示	本アイコンをタップすると、画面上に小型のキーボードを表示させることができます。

4. 2 アプリケーションの起動方法

アプリケーションの起動を行うには次の3種類の方法があります。

(1) マニュアル操作による起動

- ① タスクバーから「スタート」ボタンを押しポップアップメニューから『ファイル名を指定して実行』を押します。
- ② “参照”ボタンを押すとダイアログを表示します。
- ③ 起動するアプリケーションを選択し“OK”ボタンを押します。
- ④ “新しいタスクの実行”ダイアログの“OK”ボタンを押すことで選択したアプリケーションが起動します。



このダイアログを利用して、アプリケーションの実行ができます。

マイコンピュータをダブルタップして Explorer を立ち上げて、指定ファイルをダブルタップすることで実行することも可能です。

(2) BATCMD による起動

BATCMD.BAT ファイルに特定の記述をすることでアプリケーションの起動を行います。

実行ファイルに引数を渡したり、アプリケーション実行前にファイルのコピーやレジストリ設定等操作が必要な場合はこのユーティリティを利用します。

設定方法は6. 5項を参照してください。

(3) Launcherによる起動

Launcher.dat ファイルに起動する実行ファイルを記載します (記載方法は6. 6項を参照してください)。デフォルトでは、BATCMD.BAT の中で Launcher.exe を立ち上げるように設定されています。

記載後、再起動すると Launcher に追加されていますから、ボタンを押すことで対応したファイルを実行できます。



図4. 2－1初期状態のランチャー画面

4.3 終了操作（シャットダウン）

Pleiades GX の終了（シャットダウン）方法は、アプリケーションにてファイルのセーブ等必要な操作を行った後、電源スイッチの操作にて電源を OFF してください。

<注意>

- ・ファイル書き込み時に電源を OFF すると、ファイルシステムが破壊され正常にファイルの読みこみが出来なくなる可能性があります。
ファイルの書き込み中には電源を OFF にしたり、CFやUSBフラッシュメモリなどを抜いたりしないで下さい。

4.4 画面の切り替え方法

画面全体に表示されるアプリケーションを複数動作させた場合には、画面の切り替えを次の操作で行います。

- ・タスクバーに表示されているタイトルをタップする。
選択したダイアログが TOP に表示されます。
- ・キーボードで[Alt]キーを押しながら[TAB]を押す。
タスクバーに表示されているアプリケーションの順番に画面を切り替えることができます。

5. 装置の設定

5.1 基本的な設定

(1) コントロールパネルの起動方法

本装置の設定は、コントロールパネルから行います。

コントロールパネルを起動する方法には、以下に示す方法があります。

(a) 出荷状態のランチャーの「コントロールパネル」というボタンを押下します。

(b) タスクバーから「スタート」→「設定」→「コントロールパネル」の順に選びます。

コントロールパネルの画面を以下に表示します。

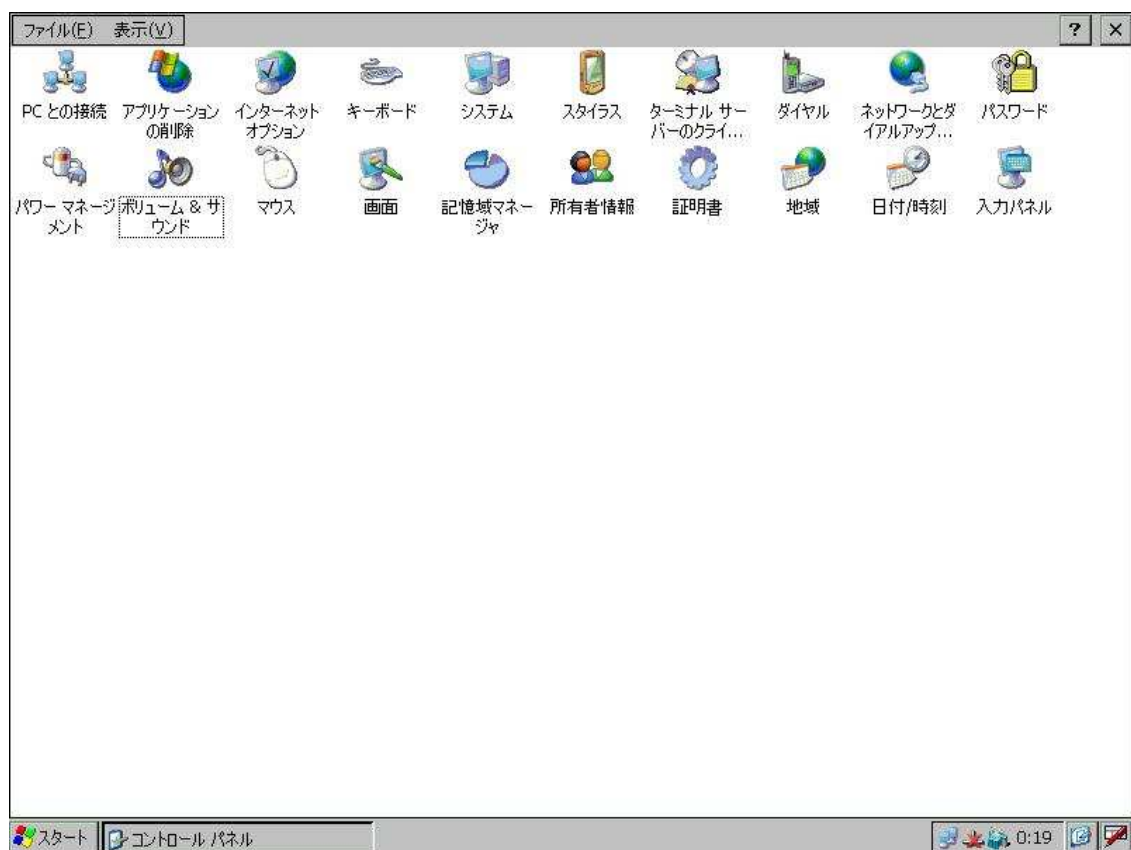


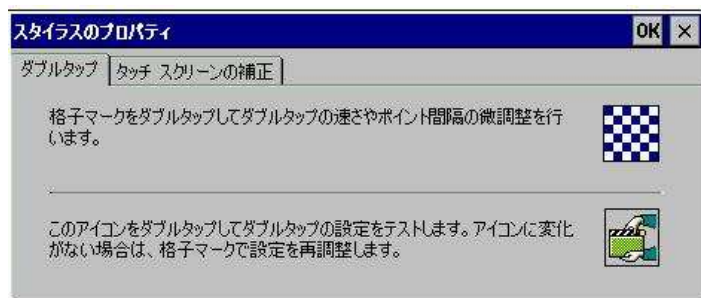
図 5. 1 - 1 コントロールパネル

5. 1. 1 タッチパネルのスタイラス設定をするには

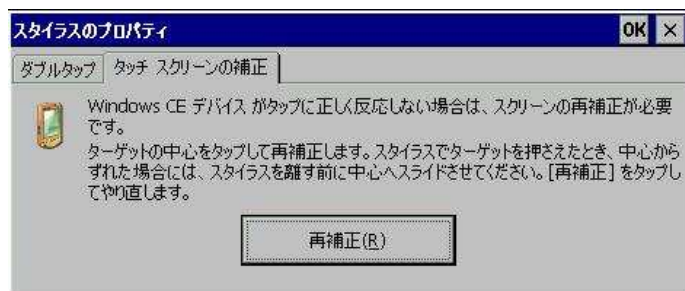
タッチパネルのタッチ位置は、出荷時調整してありますが、タッチした際、意図したところからずれた場所が押されるような場合、調整することができます。

以下の手順で調整してください。（タッチ位置のずれにもよりますが、ずれが大きい場合は、USB マウスやキーボードが必要になります。）

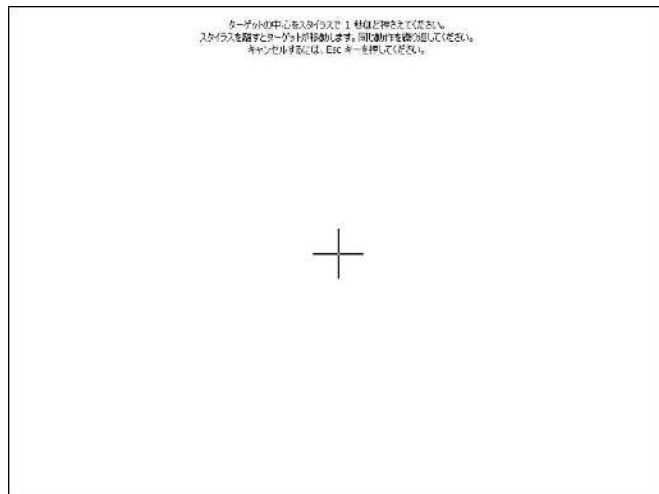
- ① コントロールパネルを開きます。
- ② コントロールパネルから、スタイラスをダブルクリック（もしくはタップ）します。次の画面が表示されます。



- ③ タッチスクリーンの補正を選択します。次の画面が表示されます。



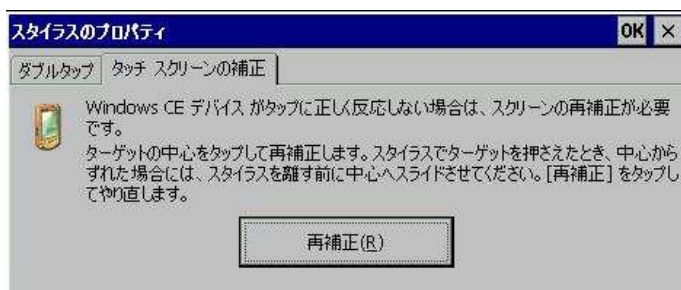
- ④ 「再補正」をクリック（もしくはタップ）します。次の画面が表示されます。



- ⑤ 画面上に「+」のマークが表示されますから、これを順次約 1 秒程度押下したあと離してください。「+」のマークは 5 回表示されます。
- ⑥ 設定が終了すると、次の画面が表示されますから、画面をタップもしくは「Enter」キーを押すことにより、終了します。



- ⑦ 再度、次の画面が表示されますから、右上の「OK」をタップしてください。



- ⑧ 最後にタスクバーのレジストリ保存のアイコンをタップして、保存してください。
保存方法は、5. 1. 7項を参照してください。

5. 1. 2 日付、時刻を設定するには

- ① コントロールパネルを開きます。
- ② コントロールパネルから、日付/時刻をダブルタップします。次の画面が表示されます。



- ③ 表示された「日付/時刻」のプロパティから、日付および時刻をセットします。
- ④ 設定が終わったら、右上の「OK」をタップしてください。
- ⑤ 日付、時刻の設定の場合は、レジストリ保存の必要はありません。
- ⑥ なお、コマンドプロンプトから、DATE および TIME コマンドで設定することもできます。

5. 1. 3 画面を一定時間で消す場合には

本装置の画面のバックライトは、出荷状態では常時点灯になっています。この設定を変更して、一定時間操作がない場合、画面のバックライトを消すことができます。

なお、画面のバックライトが消えた状態で、キー入力やタッチパネルを押下すると、バックライトが点灯しますが、そのときの操作も有効となります。

設定方法は以下のとおりです。

- ① コントロールパネルを開きます。
- ② コントロールパネルから、「パワーマネージメント」をダブルタップします。表示された「パワーマネージメントのプロパティ」から「設定」を選択します。
- ③ 「電源設定」のコンボボックスの「▼」をタップして、「AC 電源」を選択します。



- ④ 「状態をユーザーアイドルに変更」のコンボボックスの「▼」をタップして画面を消すまでの時間を指定します。

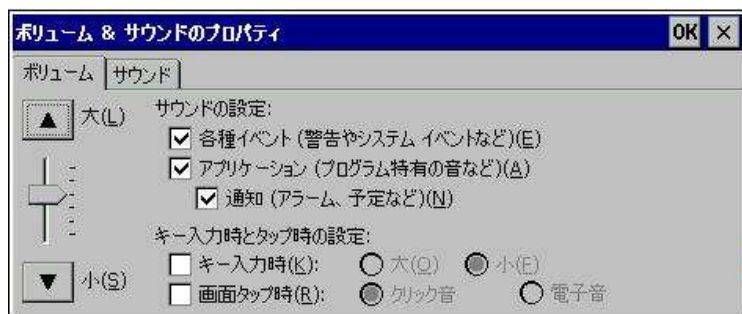


- ⑤ 設定が終わったら、右上の「OK」をタップしてください。
- ⑥ 最後にタスクバーのレジストリ保存のアイコンをタップして、保存してください。
保存方法は、5. 1. 7項を参照してください。

5. 1. 4 音のボリュームを設定するには

本装置の音量は、出荷時、中間レベルに設定してあります。音量を変更する手順を以下に示します。

- ① コントロールパネルを開きます。
- ② コントロールパネルから、「ボリューム&サウンド」をダブルタップします。表示された「ボリューム&サウンドのプロパティ」から「▼」もしくは「▲」をタップして、音量を変更します。



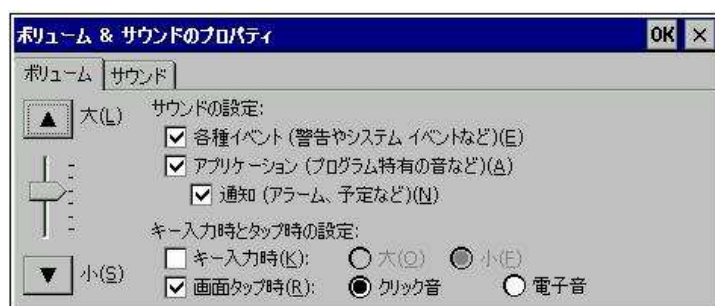
- ③ 設定が終わったら、右上の「OK」をタップしてください。
- ④ 最後にタスクバーのレジストリ保存のアイコンをタップして、保存してください。
保存方法は、5. 1. 7項を参照してください。

5. 1. 5 タッチパネルのタッチ音を設定するには

本装置のタッチパネルのタッチ音は、出荷時は無効に設定してあります。

タッチ音を有効にする手順を以下に示します。

- ① コントロールパネルを開きます。
- ② コントロールパネルから、「ボリューム&サウンド」をダブルタップします。表示された「ボリューム&サウンドのプロパティ」から「画面タップ時」のチェックボックスをタップしてチェックをつけることにより、タッチ音が有効になります。



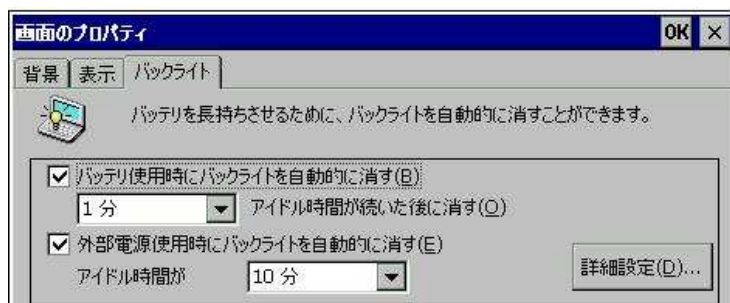
- ③ タッチ音の音質は、クリック音もしくは電子音のラジオボタンで選択します。
- ④ 設定が終わったら、右上の「OK」をタップしてください。
- ⑤ 最後にタスクバーのレジストリ保存のアイコンをタップして、保存してください。
保存方法は、5. 1. 7項を参照してください。

5. 1. 6 画面の輝度を設定するには

本装置の画面の輝度は、出荷時、中間レベルに設定してあります。輝度を変更する手順を以下に示します。

なお、フォークリフトやカート搭載時、外部バッテリーを使用して本装置を動作させる場合、画面を明るくすれば、その分バッテリーの消耗が早くなります。その場合は中間レベル以下で使用することを推奨します。

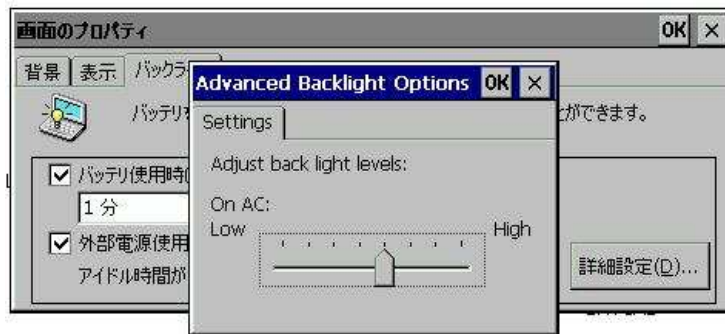
- ① コントロールパネルを開きます。
- ② コントロールパネルから、「画面」をダブルタップします。表示された「画面のプロパティ」から「バックライト」を選択します。



なお、本画面の「バックライトを自動的に消す」というチェックボックスは、本装置では無効です。

- ③ 「詳細設定」をタップして、表示された「Advanced Backlight Options」のスライドスイッチを左右に動かして、輝度を変更します。右に動かすと明るくなり、左に動かすと

暗くなります。



- ④ 設定が終わったら、右上の「OK」をタップしてください。
- ⑤ 最後にタスクバーのレジストリ保存のアイコンをタップして、保存してください。
保存方法は、5. 1. 7項を参照してください。

5. 1. 7 レジストリを保存するには

コントロールパネル等で設定された項目は、電源を OFF してしまうと設定情報が揮発してしまい、次回立ち上げ時には初期値に戻ってしまいます。

それらを防ぐ為に、設定を行った後は以下の手順で設定の保存を行ってください。

以下の手順でレジストリ保存ツールを利用して設定の保存を行います。

- ① タスクバー上のレジストリ保存ツールアイコン  をタップし、『OPEN』を選択します。



- ② 表示されるダイアログの Start ボタンを押します。



- ③ ダイアログの表示が消えれば終了です。

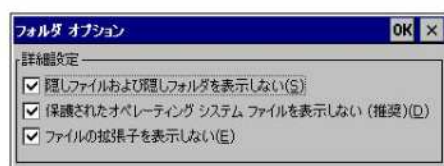
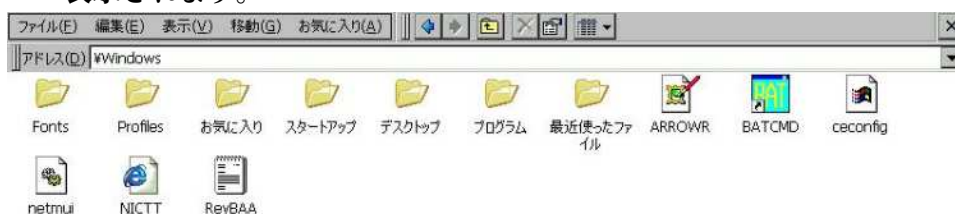
注意. タスクバー上のレジストリ保存ツールアイコンをタップしたとき、「CLOSE」を選択してしまうと、アイコンが消えてしまいます。この場合は、以下のいずれかの手段で再表示させることができます。

方法1. タスクバーのスタートボタンを押し、「ファイル名を指定して実行」を選択し、「saveregapp」を実行します。

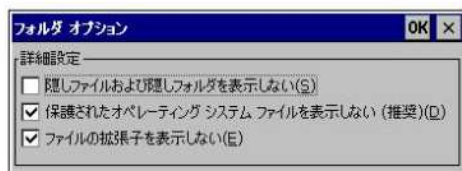
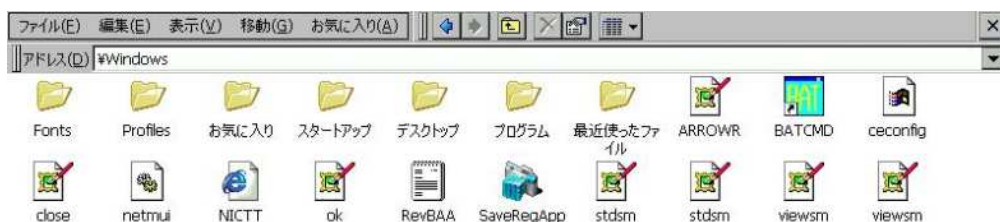


方法2. 「Windows」フォルダにある「SaveRegApp」を実行します。手順は以下のとおりです。

- (a) 「マイデバイス」をダブルタップし、表示された「Windows」をダブルタップします。「表示」をタップし、「オプション」をタップして選択します。以下のように表示されます。



- (b) フォルダオプションの「隠しファイルおよび隠しフォルダを表示しない」というチェックボックスのチェックをはずし、OKをタップします。



(c) 「SaveRegApp」というアイコンが表示されますから、これをダブルタップします。

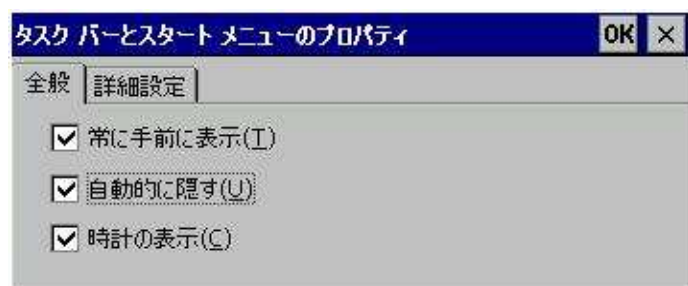
5. 1. 8 タスクバーを消すには

タスクバーを消す手順を以下に示します。

- ① タスクバーの「スタート」をタップし、「設定」をタップします。以下のように表示されます。



- ② 表示された「タスクバーとスタートメニュー」をタップします。
- ③ 「タスクバーとスタートメニューのプロパティ」の「自動的に隠す」のチェックボックスをタップしてチェックします。



- ④ 最後にタスクバーのレジストリ保存のアイコンをタップして、保存してください。保存方法は、5. 1. 7項を参照してください。

5.1.9 ショートカットを作成するには

本装置では、デスクトップにショートカットを作成しても、デスクトップの領域は RAM 上の領域であるため、電源を OFF/ON すると消えてしまいます。

以下にショートカットを保持する手順を CMD.EXE のショートカットを作成する例で示します。

① ショートカットを作成します。

CMD.EXE の場合、Windows フォルダをエクスプローラで表示し、「表示」メニューから「オプション」を選び、「保護されたオペレーティングシステムファイルを表示しない」のチェックボックスのチェックをはずします。

その後、cmd をタップして選択し、「ファイル」メニューから「送る」「デスクトップのショートカット」を選択します。



② 作成されたショートカットは、「Windows¥デスクトップ」というフォルダにありますから、これを NORFlash フォルダに、コピーします。



③ NORFlash フォルダの BATCMD.BAT ファイルに以下のコマンドを追加します。また、CPY.BAT というファイルを NORFlash フォルダに作成し、内容を以下のようにします。

BATCMD.BAT に追加するコマンド

Start△¥windows¥cmd.exe△/c△¥norflash¥cpy.bat

注：△はスペースのこと

CPY.BAT の内容

Copy△¥norflash¥"cmdへのショートカット.lnk"△"¥windows¥デスクトップ¥"

④ 再起動することにより、ショートカットが表示されます。



注意、作成したショートカットを¥windows¥スタートアップ フォルダに入れても、立上時に起動させることはできません。これは、スタートアップのフォルダの内容も、電源OFF/ONで消えてしまうことによります。また BATCMD.BAT に記述することにより、立上時にショートカットを¥windows¥スタートアップ フォルダにコピーしても、すでに WindowsCE はスタートアップを実行してしまった後であるためです。

5.2 有線の設定

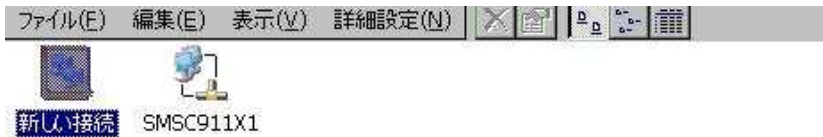
内蔵の有線 LAN を使用して、通信ができるようにする手順を以下に記述します。

5.2.1 IPアドレスの設定

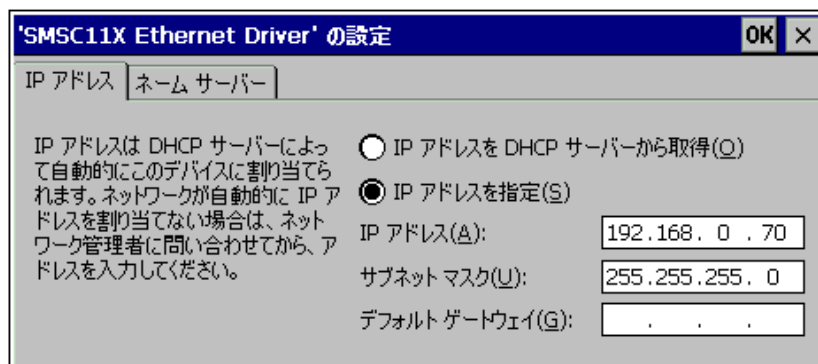
IPアドレスを設定します。設定する値については、ネットワーク管理者の指示に従い、正しく設定してください。

IPアドレスの設定は、以下の手順で行います。

- ① コントロールパネルを開きます。
- ② コントロールパネルから、「ネットワークとダイヤルアップ接続」をダブルタップします。



- ③ 表示された画面から「SMSC911X1」をダブルタップします。出荷状態では「IPアドレスをDHCPサーバーから取得」が選択されています。IPアドレスを指定する場合はここで指定します。



上図はIPアドレスを、192.168.0.70 に指定した例です。

- ④ DNSやWINSを指定する場合は、「ネームサーバー」のタグをタップして、設定します。



- ⑤ 設定が終わったら、右上の「OK」をタップしてください。
- ⑥ 最後にタスクバーのレジストリ保存のアイコンをタップして、保存してください。

5.2.2 通信の確認

IPアドレスを設定したら、イーサネットのケーブルを接続し、通信の確認を行います。確認の手順を以下に示します。

- ① IPアドレスが設定されているか確認します。コマンドプロンプトから IPCONFIG△/all と入力して、確認します。以下に確認した例を示します。なおこのコマンドを入力すると、MAC アドレスも調べることができます。(下図の Address の行に MAC アドレスが表示されます。)

```
ファイル(E) 編集(E) ヘルプ(H)
Pocket CMD v 5.0
\> ipconfig /all
Windows IP configuration

Ethernet adapter Local Area Connection:
    IP Address . . . . . : 192.168.0.70
    Subnet Mask . . . . . : 255.255.255.0
    Adapter Name . . . . . : SMSC911X1
    Description . . . . . : SMSC911X1
    Adapter Index . . . . . : 65538
    Address. . . . . : 00 20 b5 60 6f 09
    DHCP Enabled. . . . . : NO

    Host name. . . . . : WindowsCE
    Domain Name. . . . . :
    NODETYPE. . . . . : 8           Routing Enabled. . . : NO
    Proxy Enabled. . . . . : NO

\>
```

- ② PING コマンドにより他の装置との間で通信ができるか確認します。コマンドプロンプトから PING コマンドにより、確認できます。

```
ファイル(E) 編集(E) ヘルプ(H)
Pocket CMD v 5.0
\> ping 192.168.0.55
Pinging Host 192.168.0.55
Reply from 192.168.0.55: Echo size=32 time<1ms TTL=128
Reply from 192.168.0.55: Echo size=32 time<1ms TTL=128
Reply from 192.168.0.55: Echo size=32 time<1ms TTL=128
Reply from 192.168.0.55: Echo size=32 time<1ms TTL=128
\>
```

5.2.3 ファイル共有

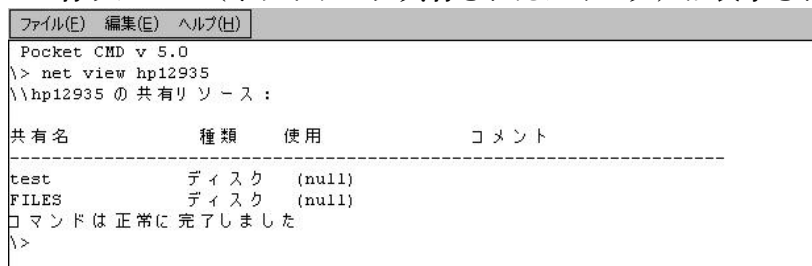
ネットワークサーバー上でネットワーク共有されたファイルを、本装置からアクセスすることができます。

手順は以下のとおりです。

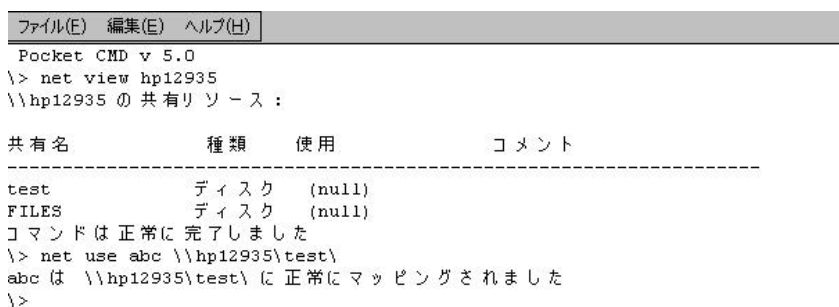
- ① コマンドプロンプトから、net view コマンドを入力します。以下に例を示します。この例の hp12935 は、ネットワークサーバーのコンピュータ名です。本例では、net△view△hp12935 と入力したあと、「ネットワークサーバーへログオン」のウィンドウが表示された状態を示しています。



- ② ここで、ユーザー名、パスワードを入力すると、次のようにネットワークサーバーの共有リソース（ネットワーク共有されたフォルダ）が表示されます。



- ③ ここで、net use コマンドを入力すると、ネットワークサーバーの共有リソースを、本装置からアクセスすることができます。以下に例を示します。



- ④ 本例では、本装置の Network というフォルダの下に abc というフォルダが作成され、そのフォルダにアクセスすることによって、ネットワークサーバーの共有名「test」という共有リソースのアクセスできるようになります。

5.2.4 アプリケーション自動起動

本装置立ち上げ時、アプリケーションプログラム（exeファイル）を、自動起動する場合には、以下のようにします。

- (1) アプリケーションプログラムを、内蔵FROM（NORFlash フォルダ）にコピーする。
- (2) NORFlash フォルダの、BATCMD.BAT ファイルを編集して、アプリケーションプログラムの自動実行を設定する。
- (3) これにより、本装置を電源投入した際、アプリケーションが自動実行されます。

① 例1. NORFlash の ap.exe ファイルを実行する場合の BATCMD.BAT の例。

```
Start△¥NORFlash¥ap.exe
```

注：△は スペース のこと

② 例2. ネットワークサーバー（コンピュータ名 AVIO）の共有フォルダ FILE を WORK という名前で共有し、その後 NORFlash の TESTPROG.exe を実行する場合の BATCMD.BAT の例

```
Mount△WORK△¥¥AVIO¥FILE△administrator△admin  
Start△¥NORFlash¥TESTPROG.exe
```

5.3 無線の設定

無線 LAN を使用して、通信ができるようにする手順を以下に記述します。

5.3.1 IPアドレスの設定

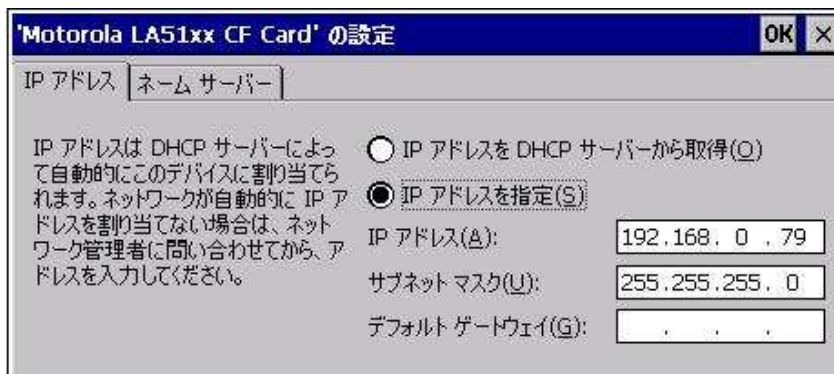
IPアドレスを設定します。設定する値については、ネットワーク管理者の指示に従い、正しく設定してください。

IPアドレスの設定は、以下の手順で行います。

- ⑦ コントロールパネルを開きます。
- ⑧ コントロールパネルから、「ネットワークとダイヤルアップ接続」をダブルタップします。



- ⑨ 表示された画面から「ECOS101」をダブルタップします。出荷状態では「IPアドレスをDHCPサーバーから取得」が選択されています。IPアドレスを指定する場合はここで指定します。



上図はIPアドレスを指定した例です。

- ⑩ DNSやWINSを指定する場合は、「ネームサーバー」のタグをタップして、設定します。
- ⑪ 設定が終わったら、右上の「OK」をタップしてください。
- ⑫ 最後にタスクバーのレジストリ保存のアイコンをタップして、保存してください。

5.3.2 ZeroConfigによる無線の設定

タスクトレイの中のZeroConfigツールを利用して行います。

(この項目もレジストリの保存を行うことにより、次回起動時に有効になります。)

- ① ZeroConfig ツールは通常、自動的に立ち上がります。表示されない場合は、タスクバーの無線通信のアイコンをダブルタップします。ツールを立ち上げると、下記の画面が表示されます。なお、この画面を表示しない場合は、「ワイヤレスネットワークが使用可能な場合通知する」のチェックボックスのチェックをはずし、OKを押してください。



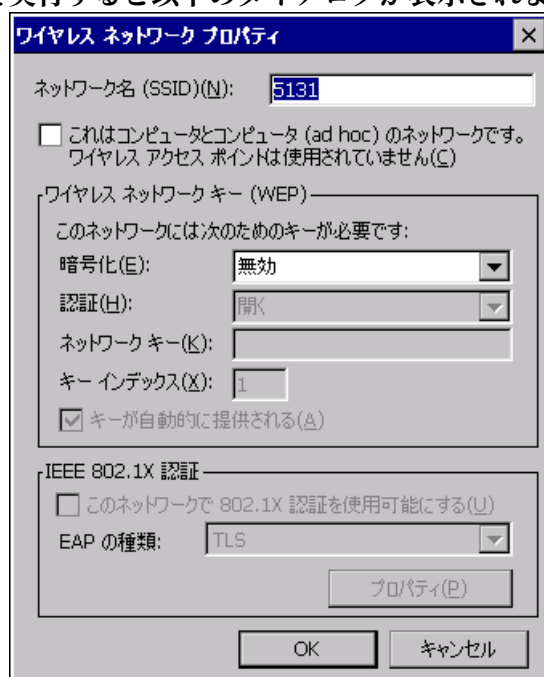
現在周辺に見つかった無線環境が表示されます。なお、セキュリティ等で制限をかけられている環境は表示されません。

②接続

表示されている環境に接続する場合は、選択して接続ボタンを押します。表示されていない環境に接続する場合は、新規追加をダブルタップし、ネットワーク名を入力します。

③接続設定

②を実行すると以下のダイアログが表示されます



SSID、WEP 等通信に必要な項目を行います。
OK を押すと最初のダイアログが表示されます。



接続された場合、この画面の状態および、シグナルの強度が更新されます。
本例では、シグナルの強度が「最良」になっています。
接続できない場合は、アクセスポイントの設定、及び端末の設定を再度確認してください。

5.3.3 通信の確認

設定が完了したら、通信の確認を行います。

確認の手順を以下に示します。

- ① IPアドレスが設定されているか確認します。コマンドプロンプトから IPCONFIG△
/all と入力して、確認します。以下に確認した例を示します。なおこのコマンドを入力
すると、MAC アドレスも調べることができます。（下図の Address の行に MAC アドレ
スが表示されます。）

```
Windows IP configuration
Ethernet adapter Local Area Connection:
    IP Address . . . . . : 169.254.27.254
    Subnet Mask . . . . . : 255.255.0.0
    Adapter Name . . . . : SMSC911X1
    Description . . . . . : SMSC911X1
    Adapter Index . . . . : 2
    Address..... : 00 20 b5 60 6f 09
    DHCP Enabled..... : YES
    DHCP Server..... : 255.255.255.255
    Primary WinsServer  :
    Secondary WinsServer:
    Lease obtained on   : Saturday, September 9 ,2006 16 : 21 : 4
    Lease expires on    : Saturday, September 9 ,2006 16 : 21 : 4
    AutoConfig Enabled  : YES

Ethernet adapter Local Area Connection:
    IP Address . . . . . : 192.168.0.100
    Subnet Mask . . . . . : 255.255.255.0
    Default Gateway ... : 192.168.0.1
    Adapter Name . . . . : ECOS101
    Description . . . . . : ECOS101
    Adapter Index . . . . : 3
    Address..... : 00 a0 f8 ea 2a 5c
    DHCP Enabled..... : YES
    DHCP Server..... : 192.168.0.1
    Primary WinsServer  : 0.0.0.0
    Secondary WinsServer:
    Lease obtained on   : Saturday, September 9 ,2006 13 : 42 : 58
    Lease expires on    : Sunday, September 10 ,2006 13 : 42 : 58
    AutoConfig Enabled  : YES

Host name..... : WindowsCE
Domain Name..... :
DNS Servers..... : 0.0.0.0
NODETYPE..... : 8   Routing Enabled.... : NO
Proxy Enabled..... : NO
```

- ② PING コマンドにより他の装置との間で通信ができるか確認します。コマンドプロンプ
トから PING コマンドにより、確認できます。


```

ファイル(E) 編集(E) ヘルプ(H)
\\> ping 192.168.0.200
Pinging Host 192.168.0.200
Reply from 192.168.0.200: Echo size=32 time=38ms TTL=128
Reply from 192.168.0.200: Echo size=32 time=11ms TTL=128
Reply from 192.168.0.200: Echo size=32 time=11ms TTL=128
Reply from 192.168.0.200: Echo size=32 time=11ms TTL=128
\\>

```

5. 3. 4 ファイル共有

ネットワークサーバー上でネットワーク共有されたファイルを、本装置からアクセスすることができます。

手順は以下のとおりです。

- ① コマンドプロンプトから、net view コマンドを入力します。以下に例を示します。この例の hp12935 は、ネットワークサーバーのコンピュータ名です。
本例では、net△view△hp12935 と入力したあと、「ネットワークサーバーへログオン」のウィンドウが表示された状態を示しています。



- ② ここで、ユーザー名、パスワードを入力すると、次のようにネットワークサーバーの共有リソース（ネットワーク共有されたフォルダ）が表示されます。

```

ファイル(E) 編集(E) ヘルプ(H)
Pocket CMD v 5.0
\\> net view hp12935
\\hp12935 の 共有リソース :

```

共有名	種類	使用	コメント
test	ディスク	{null}	
FILES	ディスク	{null}	

```

コマンドは正常に完了しました
\\>

```

- ③ ここで、net△use コマンドを入力すると、ネットワークサーバーの共有リソースを、本

装置からアクセスすることができます。以下に例を示します。

```

ファイル(E) 編集(E) ヘルプ(H)
Pocket CMD v 5.0
\> net view hp12935
\\hp12935 の 共有リソース :

共有名                種類      使用          コメント
-----
test                  ディスク  (null)
FILES                 ディスク  (null)
コマンドは正常に完了しました
\> net use abc \\hp12935\test\
abc は \\hp12935\test\ に正常にマッピングされました
\>
```

- ④ 本例では、本装置の Network というフォルダの下に abc というフォルダが作成され、そのフォルダにアクセスすることによって、ネットワークサーバーの共有名「test」という共有リソースのアクセスすることができるようになります。

5.3.5 無線自動起動

本装置立ち上げ時、アプリケーションプログラム（exeファイル）を、自動起動する場合には、以下のようにします。

- (2) アプリケーションプログラムを、内蔵FROM（NORFlash フォルダ）にコピーする。
- (3) NORFlash フォルダに WL.BAT というバッチファイルを作成し、無線通信の設定用のファイルを作成する。
- (4) NORFlash フォルダの BATCMD.BAT ファイルを編集して、無線通信設定用のファイルを自動起動させ、さらにアプリケーションプログラムの自動実行を設定する。
- (5) これにより、本装置を電源投入した際、無線通信が確立し、アプリケーションが自動実行されます。

- ① 例1. セキュリティ設定のない、SSID が 5131 の無線アクセスポイントに接続し、NORFlash の ap.exe ファイルを実行する場合の BATCMD.BAT と WL.BAT の例。

BATCMD.BAT

```
Wait△50
Start△¥windows¥cmd.exe△/c△¥NORFlash¥WL.BAT
Wait△50
Start△¥NORFlash¥ap.exe
END
```

注意. 無線の場合、無線カードの認識や、無線通信の確立に時間がかかりますから、本例のように、Wait 文を入れる必要があります。本例では、5秒のウェイトを入れてありますが、システムによっては10秒程度のウェイトを入れる必要がある場合もあります。

WL.BAT

```
¥windows¥wzctool.exe△-c△ECOS101△-ssid△5131
```

- ② 例2. ネットワークサーバー（コンピュータ名 AVIO）の共有フォルダ FILE を WORK という名前で共有し、その後 NORFlash の TESTPROG.exe を実行する場合の BATCMD.BAT の例。無線は、SSID が 5131 で、WEP キーが 16 進数の「101112131415161718191a1b1c」とする。

BATCMD.BAT

```
Wait△50  
Start△¥windows¥cmd.exe△/c△¥NORFlash¥WL.BAT  
Wait△50  
Mount△WORK△¥¥AVIO¥FILE△administrator△admin  
Start△¥NORFlash¥TESTPROG.exe
```

WL.BAT（本例ではレイアウトの都合で2行に記述していますが、実際は1行に記述してください）

```
¥windows¥wzctool.exe△-c△ECOS101△-ssid△5131△-encr△wep△-key  
△1/0x101112131415161718191a1b1c
```

5.4 アプリケーションソフトの格納

Pleiades GX にアプリケーションソフトを格納 (インストール) するには次の3つの何れかの方法によります。

レジストリの変更を必要とするアプリケーションソフトについては、インストール後、レジストリの保存 (5.1.7項参照) を行ってください。

(1) CF カード (またはUSBフラッシュメモリ) からの格納 (インストール)

- ①作成したアプリケーションソフトを、PCから CF カード (またはUSBフラッシュメモリ) にコピーを行ってください。
- ②アプリケーションソフトを格納した CF カード (またはUSBフラッシュメモリ) を Pleiades GX の CF カードスロット (またはUSB) に入れてください。
- ③Explorer を利用してコピーして下さい。

(2) ネットワーク共有ファイルからの格納 (インストール)

- ①Pleiades GX からネットワーク上の共有ファイルにアクセスするためには、Pleiades GX のIPアドレスの設定、もしくはDHCPサーバーからの IP 取得の設定を行っていることが前提となります。DHCPサーバーからの取得を設定した場合は、ネットワーク上にDHCPサーバーがあることが必要です。アクセスしたい共有ファイルを有するPCは、DHCPサーバーが動作するPCとは別のPCでもかまいません。設定終了後、電源を入れなおしてください。

- ②作成したアプリケーションソフトをネットワーク共有フォルダに格納します。

- ③CMD.exe 上の net コマンド、又は BATCMD.EXE の mount コマンドを利用して共有フォルダを参照できる状態にします。

例: net△use△avio△//avio/testprog

(net コマンドの詳細については、コマンドプロンプト上のヘルプを参照してください。)

ユーザー名パスワードが要求された場合は、設定後 OK を押してください。

- ④Explorerを利用して、共有フォルダから必要なファイルをコピーします。

(3) CABファイルによるインストール

インストール方法は、Explorerを利用して解凍するファイルをダブルタップしてください。後は画面の指示どおりに操作をすることでインストールを行うことができます。

<注意>

- ・CABファイルを解凍してインストールする場合、元のファイルは削除されます。残す場合は、ファイルをコピーして解凍を行ってください。
- ・CABファイルを解凍する際、空白や記号が入っている場合や、名前が長すぎる場合に解凍できない場合があります。この場合はファイル名を短くした後に再度解凍を行ってください。
- ・CABファイルは、WindowsCE5.0 用のものでないとインストールできません。
- ・CAB ファイルの解凍に成功した場合、ほとんどの場合でレジストリの追加が行われます。その為、解凍終了後は必ず、レジストリの保存を行ってください。(5.1.7 項 参照)
- ・解凍するファイル群をどのフォルダに展開するかを聞いてきますが、NORFLASH フォルダ(または Memcard)、またはこれらのサブフォルダ以外に展開しますと、次回起動時に揮発してしまいます。展開先は上記フォルダ内に行ってください。
また、DLL 等のファイルが Windows フォルダに格納される場合があります。その場合は隠しファイルも含めて全てのファイルを NORFLASH (または Memcard) にコピーしてください。このような場合、アプリケーションを実行する時は、コピーしたファイルをアプリケーション実行前に Windows フォルダにコピーし、その後アプリケーションを起動して下さい。

6. プログラム詳細

6. 1 コマンドプロンプト

コマンドプロンプトは WindowsXP のコマンドプロンプトに類似したプログラムで、各種ファイル操作をコマンドラインで行うことができます。

(1) コマンドプロンプトの起動方法

ポップアップメニューから「プログラム」→「コマンドプロンプト」を選ぶことにより実行されます。

(2) コマンドプロンプトの機能

コマンドプロンプトはコマンドラインより次のことができます。

各コマンドの詳細についてはコマンドのヘルプを参照ください。

注意：空白を含む文字列を利用する場合は、“”で括る形で記載してください。空白のみを括っても良いです。

start :プログラムの実行 (拡張子「.exe」は省略することができます)

例 start△batcmd.exe

注：△はスペースのこと

attrib :ファイル属性の表示、変更

例 attrib△¥NORFLASH¥batcmd.exe△+h
attrib△¥windows¥*.△-R

cd :現在のディレクトリの表示、変更

例 cd△¥windows¥

cls :画面のクリア

copy :ファイルのコピー (フォルダのコピーは出来ません)

例 copy△¥BATCMD.BAT△¥NORFLASH¥
copy△¥NORFLASH¥*.△“¥Program Files¥”
copy△¥NORFLASH¥BATCMD.BAT△¥NORFLASH¥BATCMD.ORG

date :システム日付の表示、変更

del :ファイルの削除

例 del△¥NORFLASH¥BATCMD.BAT

dir :ファイルやサブディレクトリの表示

例 dir△¥windows¥

exit :コマンドプロンプトの終了

help :コマンドプロンプトのコマンドヘルプ

md : ディレクトリの作成
 例 md△test
 md△“¥NORFLASH¥test AP¥”

move : ファイルの移動
 例 move△¥NORFLASH¥BATCMD.BAT△¥NORFLASH¥default¥

net : ネットワークコマンドの起動
 ネットワークコマンドはネットワーク共有ファイルへのマウントに使用します。
 例 net△use△work△¥¥server¥workdir

rd : ディレクトリの削除
 例 rd△¥NORFLASH¥testAP¥

ren : ファイル名の変更
 例 ren△¥NORFLASH¥test.exe△¥NORFLASH¥sample.exe

time : システム時刻の表示、変更

type : ファイルの表示
 例 type△startup.dat

ipconfig : 現在の TCP/IP ネットワーク構成値の表示

ping : IP パケットが通信先まで届いているか、到達可能か調べるコマンド
 例 ping△192.168.1.1
 <注意>ping 実行中にウィンドウを閉じて、コマンドは終了いたしません。
 強制終了時は、キーボードより「Ctrl」＋「C」を押して終了させてください。

/? : コマンド固有のヘルプを表示

6.2 コントロールパネル

コントロールパネルの主に使用する機能については、5.1項を参照ください。ここでは、コントロールパネルの各機能の概要について、記述します。

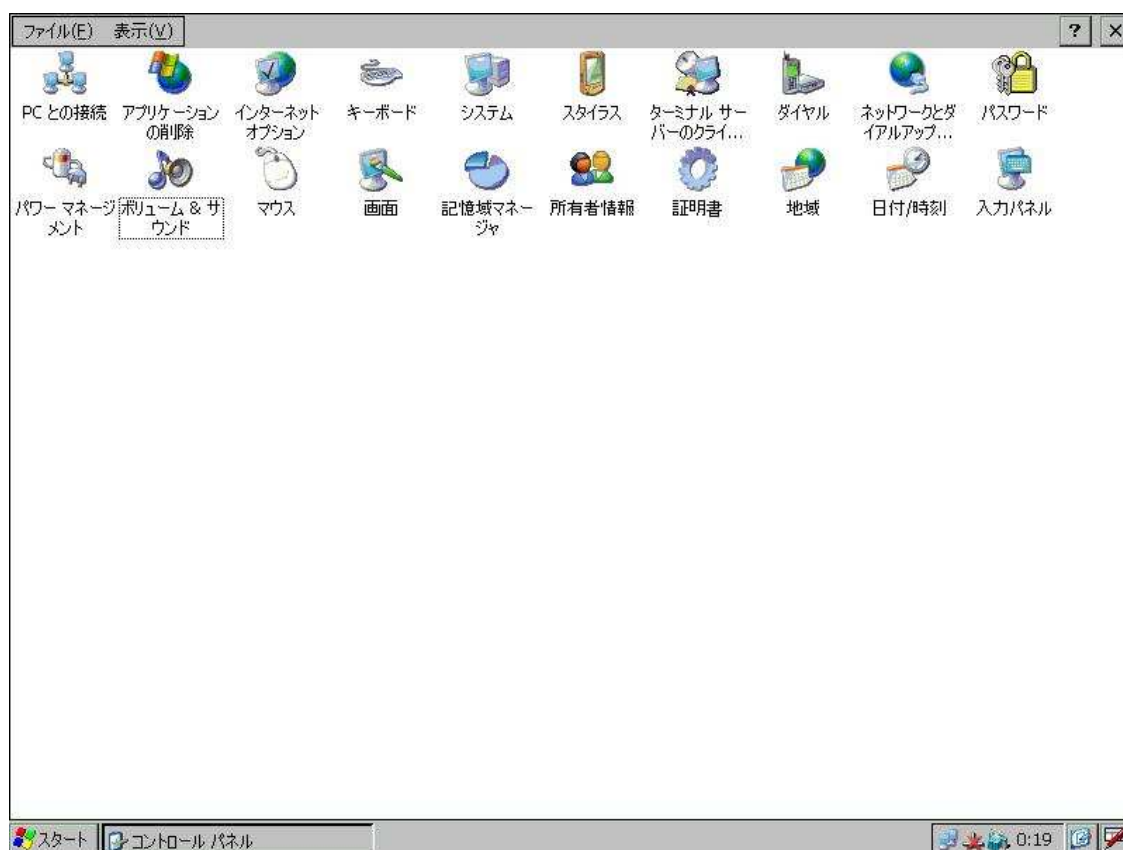
デフォルトの設定に戻す場合は、『NORFLASH』フォルダに入っている ClearRegistry.exe ファイルを実行し電源を OFF/ON してください。

なお、出荷時には、ランチャーに「レジストリ出荷設定」というボタンを作成してあります。これを押下すると「ClearRegistry.exe」ファイルが実行されます。

(1) コントロールパネルの起動方法

スタートメニューから「設定」→「コントロールパネル」の順に選択すると、コントロールパネルが表示されます。

コントロールパネルの画面を以下に示します。



(2) コントロールパネルの設定内容

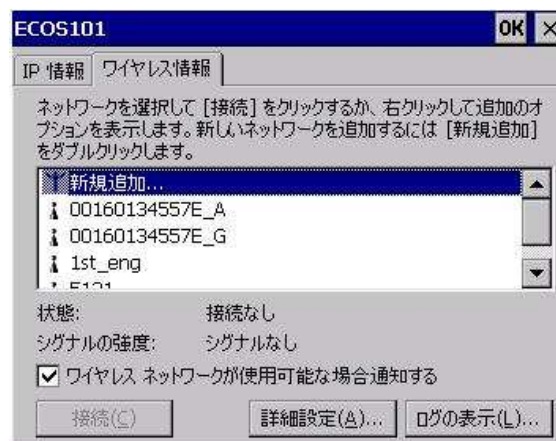
- ①PC との接続 :ActiveSync を利用する際、接続に利用する名称を選択します。
接続設定は、『ネットワークとダイヤルアップ接続』で行います。
- ②アプリケーションの削除 :CAB ファイルよりインストールされたアプリケーションの削除を行います。
- ③インターネットオプション :インターネットエクスプローラの設定を行います。
- ④キーボード :キーボードのリピート時間の設定を行います。
- ⑤システム :システムのプロパティ、メモリの使用状況を表示します。
- ⑥スタイラス :タッチパネルのキャリブレーション (補正) を行います。
- ⑦ターミナルサーバーのクライアントライセンス :**この設定は利用できません。**
- ⑧ダイヤル :COMポートまたは CF カードのスロットにモデムを接続し、電話回線での接続を行う場合にモデムの設定や電話番号等の設定を行います。
- ⑨ネットワークとダイヤルアップ接続 :通信の設定を行います。
- ⑩パスワード :**この設定は利用できません。**
- ⑪パワーマネージメント :
:画面を一定時間で消さない場合、「設定の AC 電源で、状態をユーザアイドルにするの時間をなし」にして下さい。
:画面を一定時間で消さない場合、「設定の AC 電源で、状態をユーザアイドルにする」の時間を適当な時間に設定して下さい。
- ⑫ボリューム&サウンド: ボリューム設定やサウンドの設定を行います。
イベント毎の音の設定を行うことは可能ですが、イベント音を多用すると、端末の動作速度に影響がありますので注意してください。
- ⑬マウス :ダブルクリックの間隔の微調整が行えます。
- ⑭画面 :
:壁紙、ウィンドウカラーの設定を行います。
壁紙の設定で容量の多い画像を利用した場合は、OS の起動に時間がかかります。
また画面の輝度の設定にも使用します。
- ⑮記憶域マネージャ :
:フォーマットやディスクのマウントの解除が行えます。
<注意> マウント解除やパーティションの作成は利用しないで下さい。

- ⑯所有者情報 : 名前、勤務先、住所、電話番号の設定が行えます。
- ⑰証明書 : プライバシーやセキュリティの為の証明書の設定です。
- ⑱地域 : 地域 (ローカライゼーション) の設定を行います。
Pleiades GX においては日本国内を前提とした設定となっていますので、
変更しないで下さい。
- ⑲日付/時刻 : 日時の設定を行えます。
- ⑳入力パネル : 入力デバイス、及び Software Keyboard の設定が行えます。

6.3 無線 LAN 設定ツール (ZeroConfig ツール)

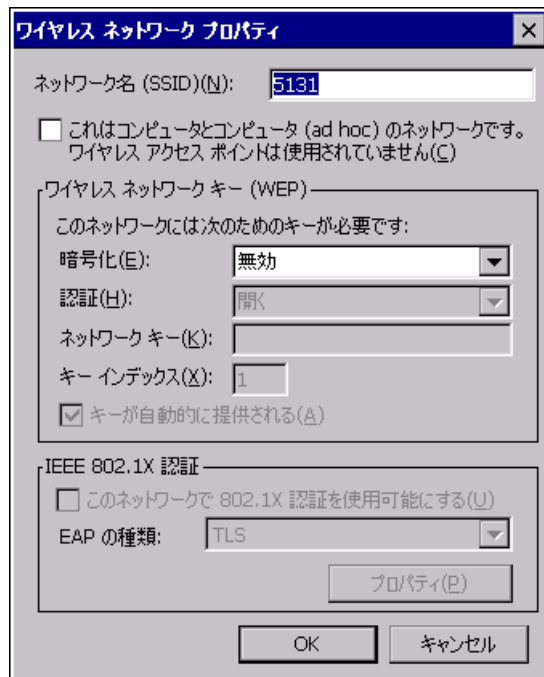
無線 LAN の設定はタスクトレイの中の ZeroConfig ツールを利用して行うことができます。なお、これにより設定した内容は電源を OFF / ON で初期化されてしまいますから、本ツールは無線のテストの時に使用し、運用では 6.4 項の wzctoolex を使用してください。

- ① ZeroConfig ツールは通常、自動的に立ち上がります。表示されない場合は、タスクバーの無線通信のアイコンをダブルタップします。ツールを立ち上げると、下記の画面が表示されます。



現在周辺に見つかった無線環境が表示されます。セキュリティ等で制限をかけられている環境は表示されません。

- ② 接続
表示されている環境に接続する場合は、選択して接続ボタンを押します。表示されていない環境に接続する場合は、新規追加をダブルタップし、ネットワーク名を入力します。
- ③ 接続設定
②を実行すると以下のダイアログが表示されます。本例は、SSID が 5131 で、暗号化なしの場合です。



SSID、WEP 等通信に必要な項目を行います。
OK を押すと最初のダイアログが表示されます。



接続された場合、この画面の状態および、シグナルの強度が更新されます。
本例では、シグナルの強度が「最良」になっています。
接続できない場合は、アクセスポイントの設定、及び端末の設定を再度確認してください。

WEP を設定する例を以下に示します。

例 1. WEP 64 の例

(キーは 16 進数で入力します。)

ワイヤレス ネットワーク プロパティ

ネットワーク名 (SSID)(N): 5131

☐ これはコンピュータとコンピュータ (ad hoc) のネットワークです。
ワイヤレス アクセス ポイントは使用されていません(C)

ワイヤレス ネットワーク キー (WEP)

このネットワークには次のためのキーが必要です:

暗号化(E): WEP

認証(H): 開く

ネットワーク キー(K): 1011121314

キー インデックス(X): 1

☐ キーが自動的に提供される(A)

IEEE 802.1X 認証

☐ このネットワークで 802.1X 認証を使用可能にする(U)

EAP の種類: TLS

プロパティ(P)

OK キャンセル

例 2. WEP 128 の例

(キーの値は 16 進数で指定します。図では、1112・・・1b1c と表示されていますが、実際の入力値は 101112・・・1b1c と入力しています。テキストボックスが狭いため、最初の 10 が表示されていません。)

ワイヤレス ネットワーク プロパティ

ネットワーク名 (SSID)(N): 5131

☐ これはコンピュータとコンピュータ (ad hoc) のネットワークです。
ワイヤレス アクセス ポイントは使用されていません(C)

ワイヤレス ネットワーク キー (WEP)

このネットワークには次のためのキーが必要です:

暗号化(E): WEP

認証(H): 開く

ネットワーク キー(K): 1112131415161718191a1b1c

キー インデックス(X): 1

☐ キーが自動的に提供される(A)

IEEE 802.1X 認証

☐ このネットワークで 802.1X 認証を使用可能にする(U)

EAP の種類: TLS

プロパティ(P)

OK キャンセル

例 3. TKIP の例

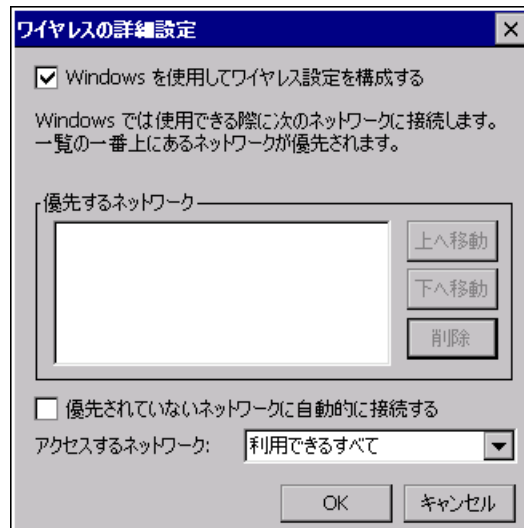
The image shows a Windows XP-style dialog box titled "ワイヤレス ネットワーク プロパティ" (Wireless Network Properties). It contains the following fields and options:

- ネットワーク名 (SSID)(N): 5131
- ☐ これはコンピュータとコンピュータ (ad hoc) のネットワークです。ワイヤレス アクセスポイントは使用されていません(C)
- ワイヤレス ネットワーク キー (WEP) —
 - このネットワークには次のためのキーが必要です:
 - 暗号化(E): TKIP (dropdown)
 - 認証(H): WPA-PSK (dropdown)
 - ネットワーク キー(K): avio12345 (text box)
 - キー インデックス(X): 1 (text box)
 - ☐ キーが自動的に提供される(A)
- IEEE 802.1X 認証
 - ☒ このネットワークで 802.1X 認証を使用可能にする(U)
 - EAP の種類: TLS (dropdown)
 - プロパティ(P) button
- OK button
- キャンセル button

④ 優先設定

一度接続状態にした環境には優先接続設定が行われます。

優先して接続する環境が複数ある場合は、以下のダイアログで優先順位などの設定を行います。



6.4 無線 LAN 設定ツール (wzctool.exe)

ZeroConfigTool では容易に無線の設定ができますが、これにより設定した内容は電源を OFF / ON してしまうと、再度設定が必要になります。**なお、この内容は、レジストリ保存ツールによっても、保存されます。**

電源 OFF/ON でも設定を有効にするためには、専用ツール (wzctool.exe) を使用します。使用方法は、5.3.5 項もあわせて参照ください。

wzctool.exe の使い方は、コマンドプロンプト上のヘルプも参照してください。

以下にコマンドの使用方法を記述します。

> windows¥wzctool△-? : コマンドヘルプを表示します。 注：△はスペースのこと

以下、本ツールのオプションについて説明します。

OPTION ([] : 任意指定、 [] : 選択設定、 _ : スペース)

-e : 無線 LAN カードの列挙

-c_ [CardName]_ : 指定 Card に対しての設定。(この後に更に以下のオプションが必要)
FMT-N70CE50M-2 付属 LAN の場合、[CardName]=ECOS101

-ssid_ [ID] : 優先接続設定の SSID 指定。[ID]は無線環境に合わせて設定

-auth_ [AUTH] : 認証設定 ([AUTH] = OPEN or SHARED、WPA-PSK)

-encr_【ENCR】_key【Num】/[Authkey]：セキュリティ設定
【ENCR】 = disabled or wep,tkip)
【NUM】 =1 or 2 or 3 or 4
[Authkey] は無線環境に合わせて設定。

-eap_【EAP】：IEEE 802.1X 認証設定
（【EAP】 =tls or Peap or md5)

-example：入力例の表示

-reset：カードのリセット。設定内容を破棄してリセットを行う。
再設定を行う場合は、必ず Reset 実行後に行う必要があります。

-refresh：カードのリフレッシュ。設定内容を保持したままリセットを行う。

-Registry：レジストリに登録された情報を元に無線 LAN の設定を行う。

-enablewzcsvc：wzctool.exe の設定を有効にする。起動直後は有効。

-disablewzcsvc 実行後に設定する場合に必要となる。

-disablewzcsvc：wzctool.exe の設定を無効にする。設定を行うと上記コマンドが全て無効となる。

以下に使用例を記述します。

例 1

注：△はスペースのこと

>¥windows¥wzctool△-c△ECOS101△-ssid△avionics

例 2 wep キーが avio567890123 の場合。

>¥windows¥wzctool△-c△ECOS101△-ssid△avionics△-encr△wep△-key△
1/avio567890123

例 3 wep キーが 16 進数で 101112131415161718191a1b1c の場合

>¥windows¥wzctool△-c△ECOS101△-ssid△avionics△-encr△wep△-key△
1/0x101112131415161718191a1b1c

例 4 WPA-TKIP でキーが avio12345 の場合

>¥windows¥wzctool△-c△ECOS101△-ssid△avionics△-auth△wpa-psk△-encr△
tkip△-key△avio12345

起動時設定を行う場合は、次のようにして実行します。

(Wireless.bat は、無線設定を行うファイルとして作成したとします。)

*****BATCMD.BAT 内容*****

```
copy△¥NORFLASH¥wireless.bat△¥temp¥
wait△30
start△¥windows¥cmd.exe△/c△¥temp¥wireless.bat
wait△30
start△¥NORFLASH¥AP.exe
end
```

*****Wireless.bat 内容*****

```
¥windows¥wzctool.exe△-c△ECOS101△-ssid△avionics△-encr△wep△-key△
1/12345
```

BATCMD 内容

- 1 行目：無線設定用のファイルを temp フォルダにコピー
- 2 行目：WAIT 時間設定（無線カード認識、及びネットワークの検索を待つ時間の設定）
- 3 行目：無線設定ファイルを、CMD の引数として渡して実行
- 4 行目：WAIT 時間設定（無線 LAN の接続確立を待つ時間の設定）
- 5 行目：アプリケーションの実行

Wireless.bat 内容

CMD 上で実行するコマンドを記載（詳細は、上記無線 LAN 設定を参照して下さい。）

<注意>

無線環境の存在を OS やドライバで検出できない場合、これらの設定は、行っても有効となりません。

無線の設定は、上記のツールを実行後、有効となるまでに少し時間がかかります。この時間は、無線の設定や、使用環境によって、変わります。

その為、端末の設定及び環境に応じて、Wait 時間を設定してください。

(3 秒以上で設定してください。)

6.5 BATCMD.EXE

BATCMD.EXEを実行することにより、BATCMD.BATに記載された順番にファイルコピー、ネットワークマウント等設定項目を自動で行うことができます。

BATCMD.BATには以下のコマンドを記述することができます。

注：△はスペースのこと

Copy△*¥*コピー元のファイルまでのパス*¥Filename1*△*¥*コピー先のフォルダまでのパス*¥*. **

：コピー元の *Filename1* をコピー先のフォルダにすべてコピーします。

Copy△*¥*コピー元のファイルまでのパス*¥*. **△*¥*コピー先のフォルダまでのパス*¥*. **

：パスで指定したフォルダの中のファイルをコピー先のフォルダにすべてコピーします

例 *copy*△*¥NORFlash¥File¥*. **△*¥windows¥*. **

NORFlash¥File フォルダ内のすべてのファイルを*Windows*フォルダにコピーします

Start△*¥*ファイルまでのパス*¥Filename.exe* :EXE ファイルを実行します。

引数 (最大 8 個) を渡すことが可能です。

例 *start*△*¥Windows¥iesample.exe*△*¥NORFlash¥Default.htm*

Default.htm ファイルを *iesample.exe* に引数として渡し実行します

Wait△*δ* : $\delta \times 100$ ミリ秒間ウェイトをかけます (δ : 任意の数値)

WBOOT : ウォームブートの実行

CBOOT : コールドブートの実行

SETREG△ルートキー△サブキー△値△データ型△データ :レジストリの追加、変更

例 HEXの場合:

SETREG△*HKEY_CURRENT_USER*△*Software¥Microsoft*△*UserName*△*hex*△61,00,76,00

Stringの場合:

SETREG *HKEY_CURRENT_USER*△*Software¥Terminal~Server~Client¥ap1*△*MRU0*△*str*△*avio*

Dwordの場合:

SETREG *HKEY_CURRENT_USER*△*Software¥Microsoft¥Internet~Explorer*△*Screen*△*dword*△00000001

<注意>レジストリのキーに空白がある場合は、空白の代わりにチルダ「~」を入れてください。

チルダ「~」をレジストリキーの空白の代わり以外に使用することはできません。

データについては Hex:1023文字、それ以外は255文字までとなります。

MOUNT△ローカル名△//ホスト名/共有フォルダ名/△[ユーザ名] △[パスワード]

：共有フォルダをローカル名としてマウントします。

例 *Mount*△*work*△//*work/ce*△*administrator*△*admin*

DEMOUNT△ローカル名 : マウントした共有フォルダを切断します。

DEL△¥ファイルまでのパス¥Filename :ファイル、またはフォルダの削除

例 del△¥NORFLASH¥startup.dat :ファイルの削除

del△¥NORFLASH¥CEFFolder :フォルダの削除

del△¥NORFLASH¥*. * :フォルダ内のファイルの削除

RENAME△¥ファイルまでのパス¥Filename△NewFilename: ファイルまたはフォルダ名の変更

例 RENAME△¥NORFLASH¥startup.dat△xxxx.dat :ファイル名の変更

RENAME△¥NORFLASH¥startupdbg△xxxx :フォルダ名の変更

MOVE△¥ファイルまでのパス¥Filename△¥ファイルまでのパス¥Filename: ファイルの移動

例 move△¥NORFlash¥startupdbg¥startup.dat△¥NORFlash¥startup.dat

SHOW :BATCMDを表示します。

HIDE :BATCMDを表示せずバックグラウンドで実行します。

DCOMP :日付の比較

例 DCOMP△¥temp¥startup.dat△¥NORFlash¥startup.dat

<注意> ファイルの種類 (又は作成場所) によっては、コピーしたファイルでも一致しない場合があります。
利用される場合は、CF上 (NORFlashフォルダ)、メモリ上 (Tempフォルダ等)、ネットワークフォルダの3箇所の中で、正常に一致が取れる箇所で利用してください。

例 NORFlashにあるファイルをtempフォルダにコピーして、ネットワークフォルダ上のファイルと比較 等

IF :条件分岐

例 IF△COMP :日付が同じ場合

IF△!COMP :日付が異なる場合

IF△WBOOT :ウォームブートが実行されていた場合

IF△!WBOOT :ウォームブートが実行されていない場合

IF△ERROR :エラーがあれば

IF△!ERROR :エラーがなければ

<注意> ERRORについては「copy」、「start」、「MOUNT」、「DEL」、「RENAME」のいずれかで正常に処理が実行されなかった場合となります。

COMPについては事前にDCOMPコマンドを実行する必要があります

また上記COMP,WBOOT,ERRORは大文字で記述してください。

ELSE :IFコマンドで偽の場合の条件分岐

ENDIF :IFコマンド終了

条件分岐コマンドの使用例

IF△!COMP

Copy△¥Network¥work¥startup.dat△¥NORFlash¥startup.dat

ELSE

MSGBOX△ファイルの日付が同じです

ENDIF

MSGBOX△表示メッセージ△ダイアログのタイトル

:メッセージボックス表示

<注意> 表示メッセージ部に半角文字「¥」を記述しないで下さい。

記述するとダイアログタイトルとして認識されません。

END :このプログラムを終了して WINDOWS を閉じる

その他の機能

; :コメントアウト。行の一番左につけてください。

実行したい順番に BATCMD.BAT ファイルにエディターで記述します。Pleiades GX には PocketWord が入っていますので、これを利用して TEXT モードで読み取り、編集後書き込んでください。

<注意>最後に必ず改行 (空行を一行) を入れるようにして下さい。

例. ネットワーク上の共有フォルダに格納されている TESTPROG.EXE をダウンロードし実行する例

```
wait△10
mount△WORK△//AVIO/FILE△administrator△admin
copy△¥Network¥work¥TESTPROG.exe△¥temp¥*. *
start△¥temp¥TESTPROG.exe
DEMOUNT△WORK
End
```

上記の例の場合は

- ①1 秒のウェイト (自動実行時、OS 起動後のネットワークの確立を待つ時間です。環境等により変わります。)
- ②ローカル名を WORK として共有フォルダ FILE をマウント
(ユーザー名: administrator Password: admin の場合)
- ③共有フォルダから *TESTPROG.exe* というファイルを TEMP フォルダにコピー
- ④temp フォルダ内の *TESTPROG.exe* を実行
- ⑤マウントした共有フォルダを切断。
- ⑥ウィンドウを閉じる

となります。

6. 6 Launcher へのアプリケーション登録方法

Launcher にアプリケーションを登録する場合は、「Launcher.dat」ファイルに記述する必要があります。

記述方法は以下のとおりです。

パソコンなどのエディタを利用して編集してください。Pleiades GX で編集する場合は、Microsoft ワードパッドを使用してください。但し、Pleiades GX では、日本語の入力はできません。

```
*****Launcher.dat*****
```

ボタンに表示させる名称:アプリケーションの Path:引数

又は

ボタンに表示させる名称:アプリケーションの Path:

```
*****
```

必ずアプリケーションの Path は半角コロン「:」でくくってください。

また、最後は必ず改行を追加してください。

<注意>

注1. 登録できるアプリケーションは9個までです。

・名称には半角コロン「:」は利用できません。

・アプリケーションのパスは「exe」ファイルしか登録できません。

注2. 名称、Path、引数共に最大文字数は128文字です。

引数の個数に制限はありません。空白で区切ってください。

例

```
*****Launcher.dat (例)*****
```

コマンドプロンプト:¥Windows¥cmd.exe:

コントロールパネル:¥Windows¥Control.exe:

レジストリクリア:¥NORFLASH¥ClearRegistry.exe:

```
*****
```

7. 装置固有のインタフェース

7. 1 COMポート

Pleiades GX のCOMポート (シリアルポート) には、COM1 と COM2 があります。

COM1、COM2のポートは次の仕様で利用できますが、通信速度の設定は全体的なシステムの負荷を考慮に入れて決定してください。

全体的なシステムの負荷が大きい場合や、アプリケーションによりシステムを占有するような場合には通信速度が速すぎると取りこぼしが発生することがあります。

COM2には DR および ER 信号はありません。RS,CS,SD,RD 信号だけがあります。

COM1 には DR、ER、RS,CS,SD,RD 信号があります

表 7. 1-1 COMポートの仕様

項 目	仕 様
コネクタ	Dsub9ピン オス
同期方式	調歩同期式
通信方式	全2重
通信速度	50～115200bps
データビット	5／6／7／8ビット
ストップビット	1／1.5／2ビット
パリティ	なし／偶数／奇数

COMポートのアプリケーションからの利用は WIN32API の CreateFile 関数、ReadFile 関数、WriteFile 関数が利用頂けます。

これらの関数の具体的な使い方については、Visual Studio2005、eMbedded Visual C++のオンラインマニュアルや、冒頭で紹介した参考文献を参照願います。

7. 2 無線

FMT-N70CE50M-2 には、無線LANが内蔵されています。

無線の仕様を表 7. 2-1 に示します。

表 7. 2-1 無線LANの仕様

項 目	仕 様
無線LAN規格	IEEE 802. 11 a/b/g 準拠
占有周波数	802. 11 a 準拠 (W52, W53): 5. 15～5. 35Ghz 802. 11 b/g 準拠: 2. 412～2. 472Ghz
セキュリティ	64bit/128bit WEP Encryption WPA-PSK(TKIP)
チャンネル数	802. 11 a 準拠 (W52, W53): 8チャンネル (36/40/44/48/52/56/60/64) 802. 11 g: 13チャンネル (1～13) 802. 11 b: 14チャンネル (1～14)
通信速度	802. 11 a: 最大54Mbps 802. 11 g: 54, 36, 24, 18, 12, 9, 6Mbps 802. 11 b: 11, 5. 5, 2, 1Mbps
用途	固定局/移動局用

注. 802. 11 aの使用は、室内に限定されます。

付録1 ActiveSync の使用方法

ActiveSync を使用する場合は下記の手順で使します。

- ① シリアルクロスケーブルで COM1 と PC のポートを接続します。(COM2 は使用できません。)
- ② コントロールパネル「ネットワークとダイヤルアップ接続」で「新しい接続」を開きます。



- ③ 「接続の種類を選択」でケーブル接続を選択し「次へ」を押下します。



- ④ 「構成」ボタンを押下します。



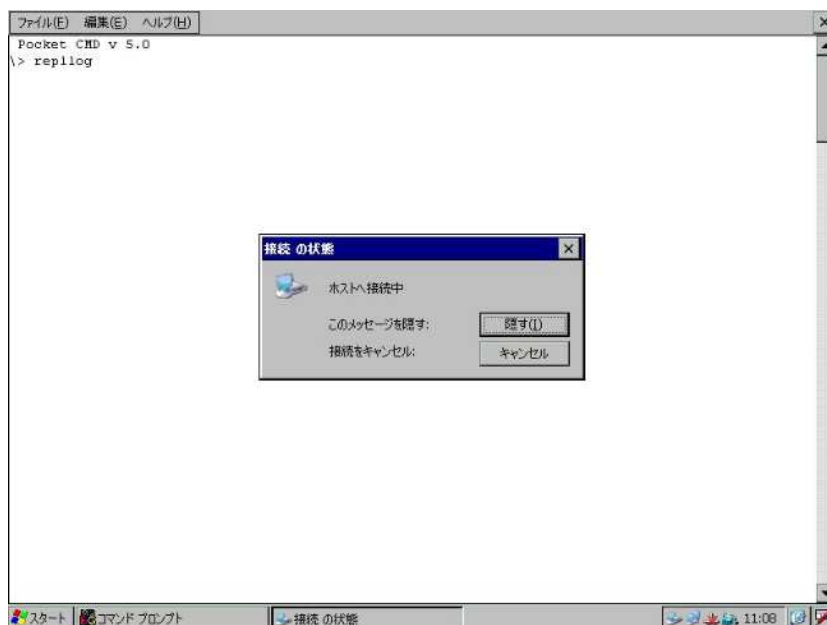
- ⑤ ボーレート:115200 を選択します。



- ⑥ 「OK」ボタンを押下します。
⑦ 「終了」ボタンを押下します。
⑧ コントロールパネルの「PC との接続」で「変更」ボタンを押下します。
⑨ ②で設定した名称を選択します。

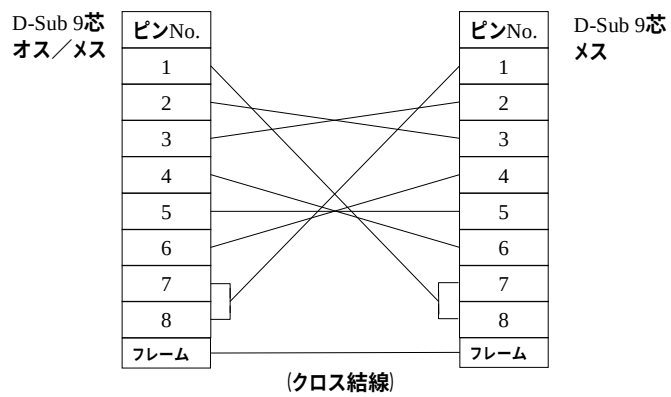


- ⑩ 「OK」ボタンを押下します。
- ⑪ 「OK」ボタンを押下します。
- ⑫ PC 側で Active Sync のアイコン (緑) が回転している間に FMT-N70 側のコマンドプロンプトから「repllog」を実行します。



＜注意＞: repllog.exe は隠しファイル (システムファイル) になっています。その為、実行する場合は名前を指定して実行か、エクスプローラのオプション設定を変更して表示後、エクスプローラで実行してください。

ActiveSync で使用するケーブルの仕様を以下に示します。

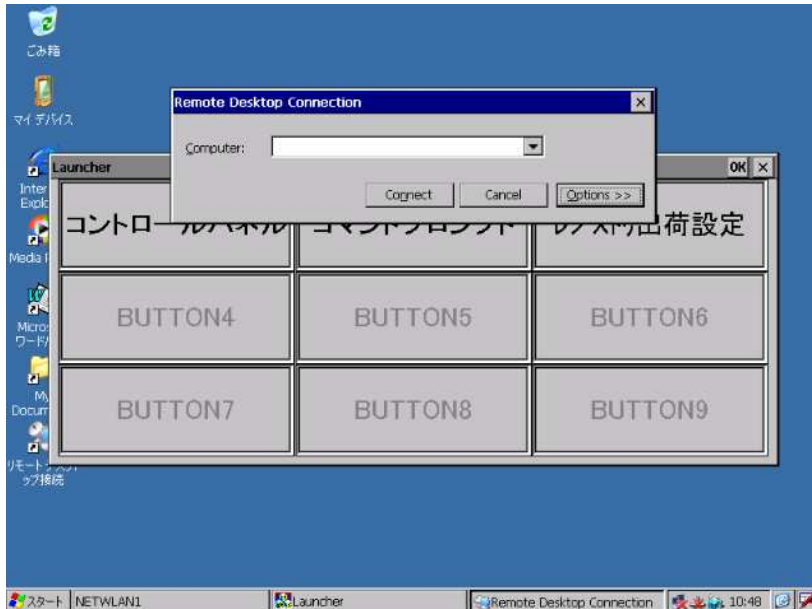


付録2 ターミナルサービスへの接続

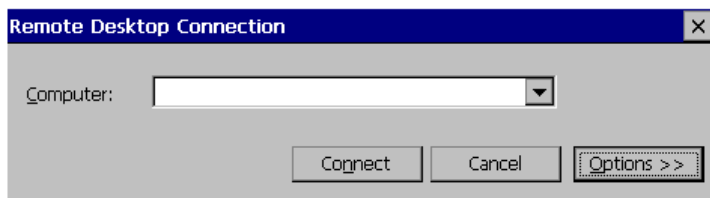
ターミナルサービスを使用する場合は下記の手順で使します。

(1) 接続手順

- ① Windows2003サーバーを準備し、Pleiades GXと通信できるようにネットワークを設定します。
- ② Pleiades GXの「リモートデスクトップ接続」のアイコンをダブルタップします。以下の画面が表示されます。

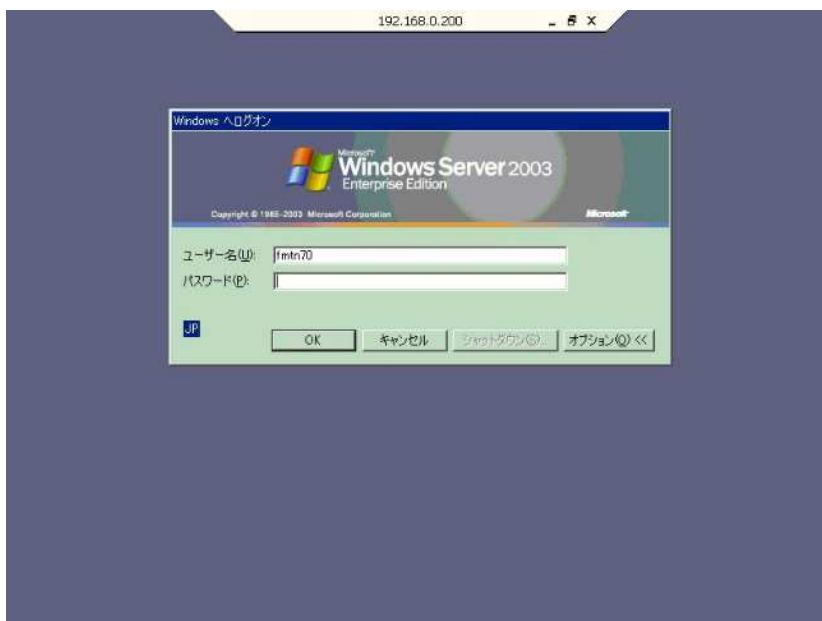


- ③ サーバーのIPアドレスを入力します。



192.168.0.200 のように入力します。

- ④ 「Connect」を押下すると、サーバーに接続され、LOGON画面が表示されます。ここで、ユーザ名とパスワードを正しく入力すると、ターミナルサーバーへ接続されます。

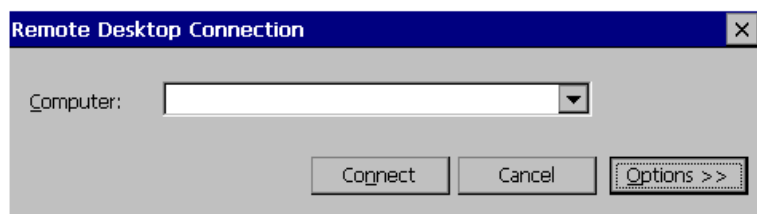


⑤ LOGOFF後、レジストリの保存を行います。

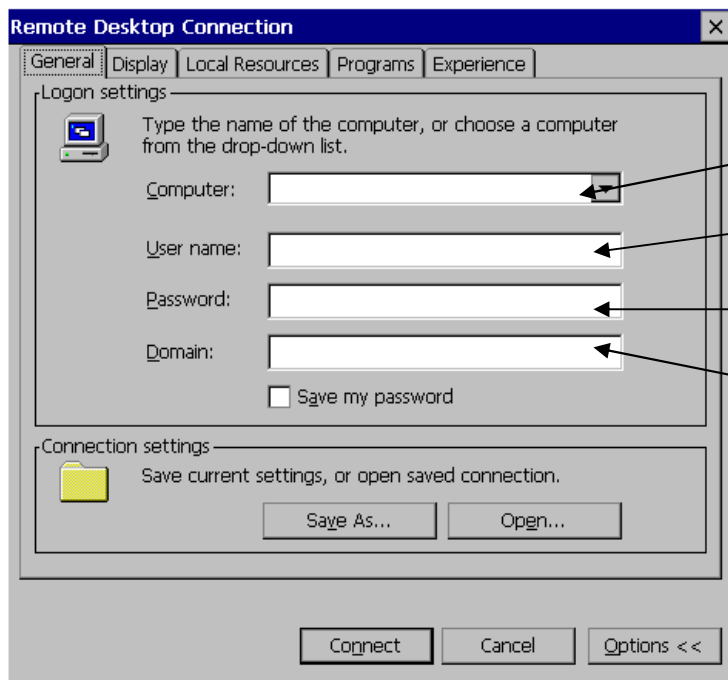
(2) 自動起動の設定

自動起動するための設定手順を以下に示します。

① 下記リモートデスクトップ画面で「Options」を押下します。



② 以下の画面が表示されます。設定値を入力します。



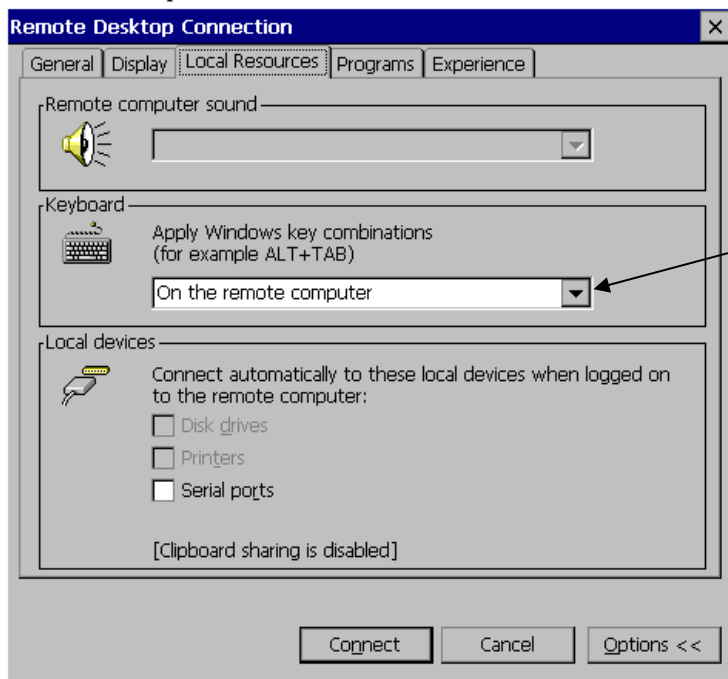
コンピュータ名を入力します。

ユーザ名を入力します

パスワードを入力します

ドメイン名を入力します

③ Local Resources のタブを押すと以下の画面が表示されます。ここで、Keyboard のところを On the local computer に変更します。(変更しないと、キーボード入力時文字化けが起きることがあります。)



ここを押して、On the local computer
に変更します。

- ④ 「General」のタブを押し、「Save As」を押下します。なお、この際、パスワードを保存する場合は「Save my password」のチェックボックスをチェックします。
- ⑤ NORFLASHというフォルダに、名前を付けて保存します。
＜以下は例として、202.rdp という名前のファイルに保存したとします。＞
- ⑥ レジストリを保存します。(レジストリを保存しないで、Pleiades GX の電源を OFF/ON してしまうと、⑧ で自動ログオンが行われません。)
- ⑦ 上記④項で保存したRDPファイルの属性を読み取り専用にします。
- ⑧ 自動起動のため、NORFLASHフォルダのBATCMD.BATというファイルに以下のように設定します。
RDPファイルは、LOGOUT時に書き換えられます。このため、必ず temp フォルダにコピーしてそれを使用するようにして下さい。

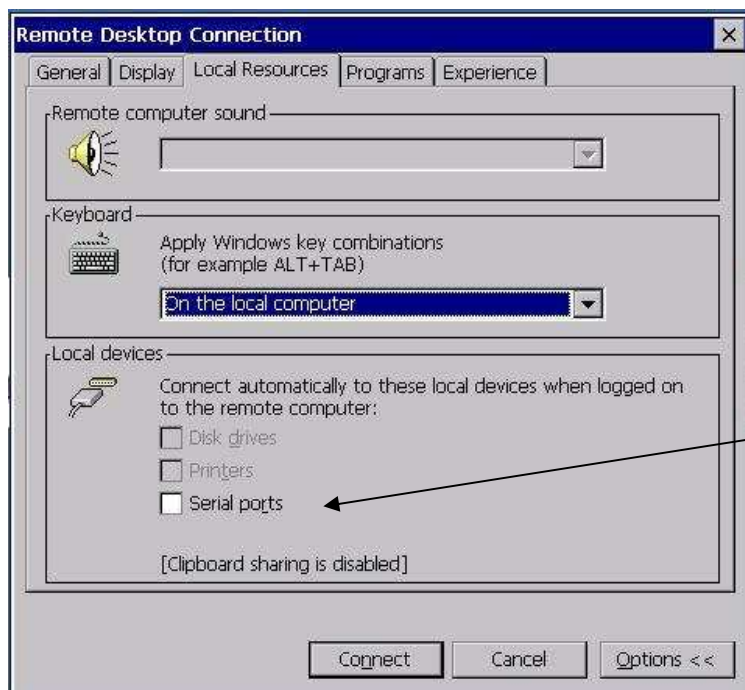
```
Copy△¥norflash¥202.rdp△¥temp¥*. *
Start△¥windows¥cetsc.exe△¥temp¥202.rdp
END
```

注：△はスペースのこと

- ⑨ パスワードを保存した場合は、Pleiades GX の電源を OFF/ON すると、自動的にログオンされます。

(3) シリアルポートの使用方法

- ① シリアルポートを使用する場合は、「Local Resources」タブを押し、表示された画面の「Serial Ports」のチェックボックスをチェックします。



このチェックボックスをチェックする。

付録3 Citrix Presentation Server への接続

Citrix Presentation Server へ接続する場合は下記の手順で接続します。

(1) 準備

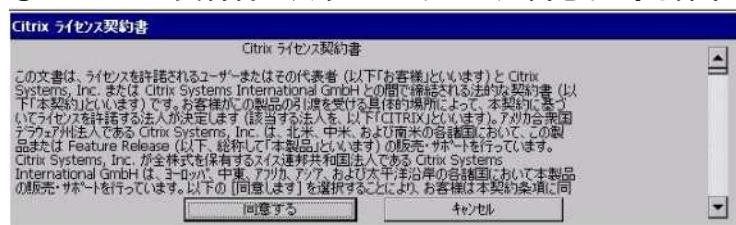
- ① Windows2003サーバーを準備し、Citrix Presentation Server をインストールし、Pleiades GXと通信できるようにネットワークを設定します。
- ② Citrix ICA クライアントを準備します。(Citrix Presentation Server の CD もしくは、Citrix 社のホームページからダウンロードします。CPU はARM4i のものを選択します。)
- ③ 以下 Citrix ICA クライアントはVer8.54について説明します。

(2) Citrix ICA クライアントのインストール

- ① ダウンロードしたCABファイルを、Pleiades GXにコピーします。(Memcard にコピーした例を示します。)



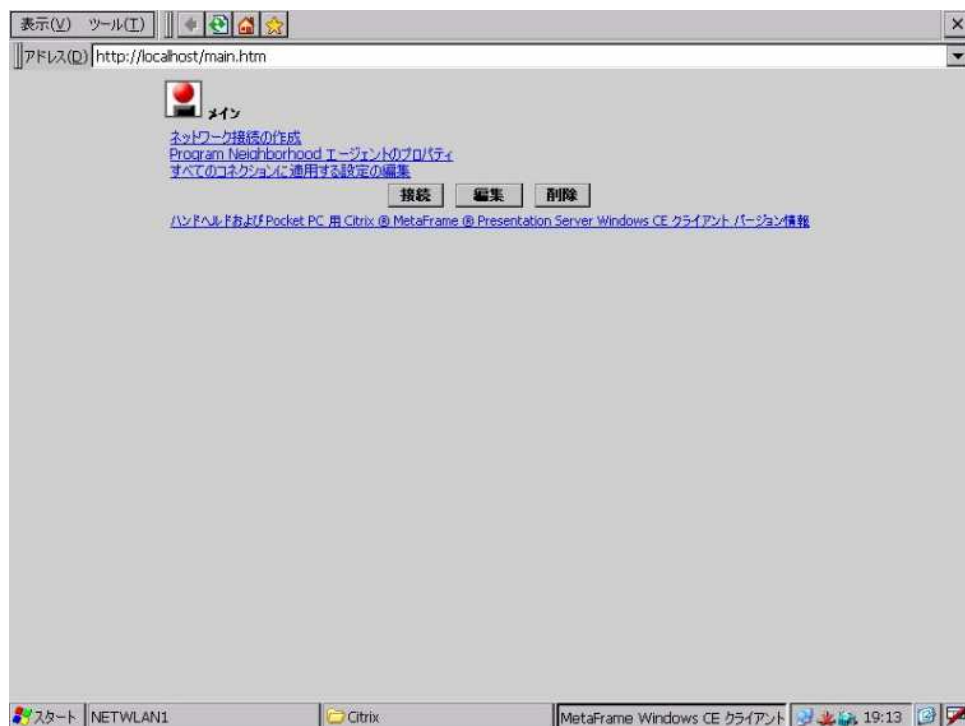
- ② このCABファイルをダブルタップすると、インストールが開始されます。
- ③ インストール先を、NORFlash に指定します。
- ④ ライセンス契約書が表示されますから、「同意する」を押下します。



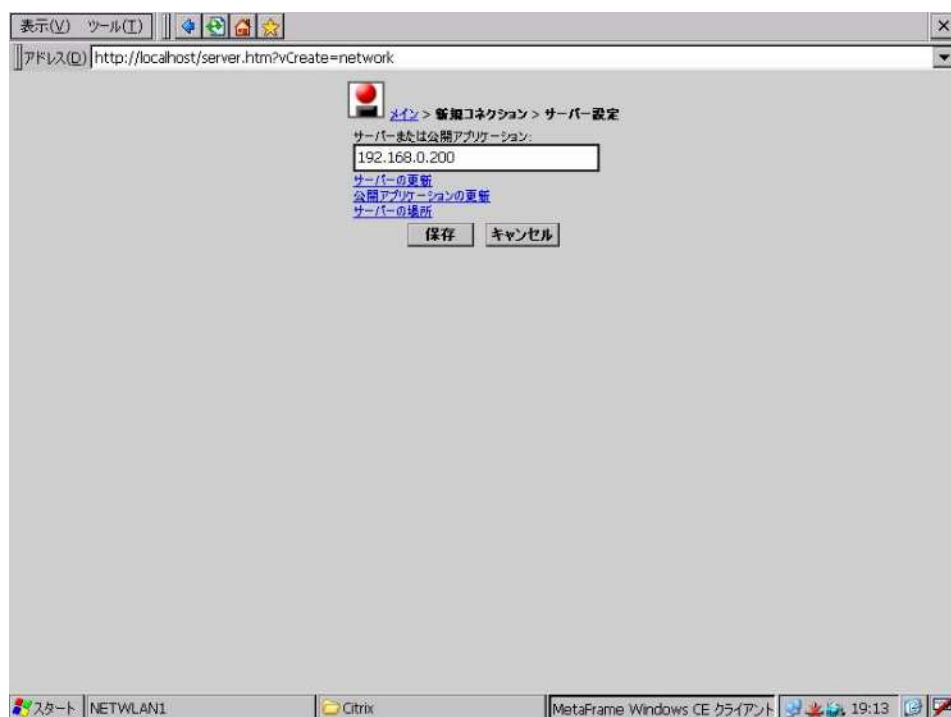
- ⑤ インストールが完了すれば、Citrix というフォルダが作成されます。

(3) Citrix ICA クライアントの起動

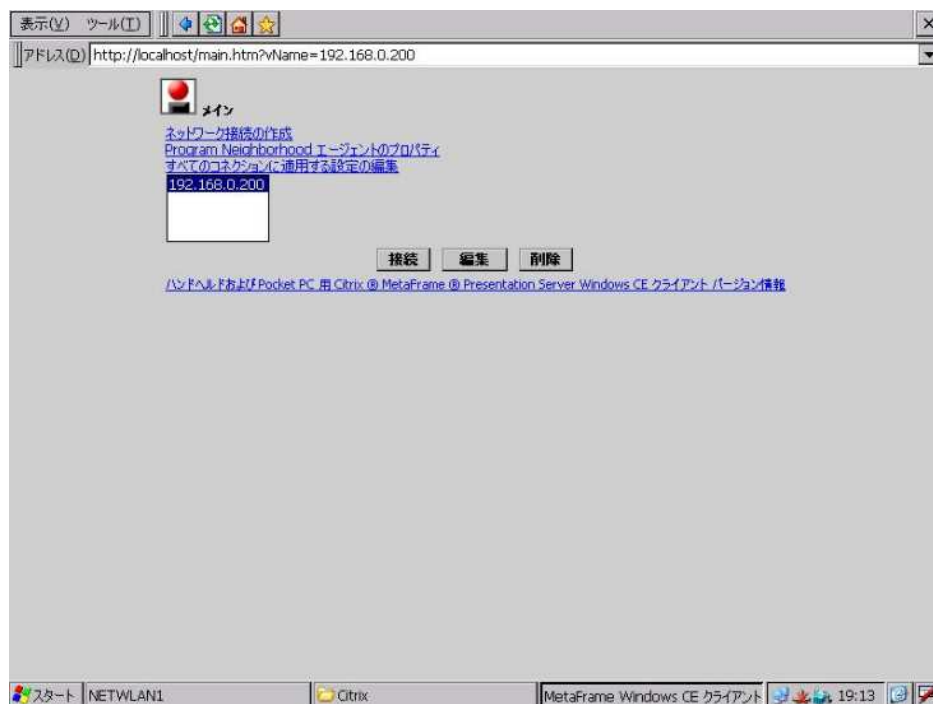
- ① Citrix ICA クライアントを起動します。インストールされた Citrix フォルダの ceicamgr のアイコンをダブルタップすることにより起動できます。
- ② Citrix ICA クライアントを起動すると以下のような画面が表示されます。



- ③ 「ネットワーク接続の作成」をタップします。サーバー設定の画面が表示されますから、サーバーのIPアドレスを入力し保存を押下します。



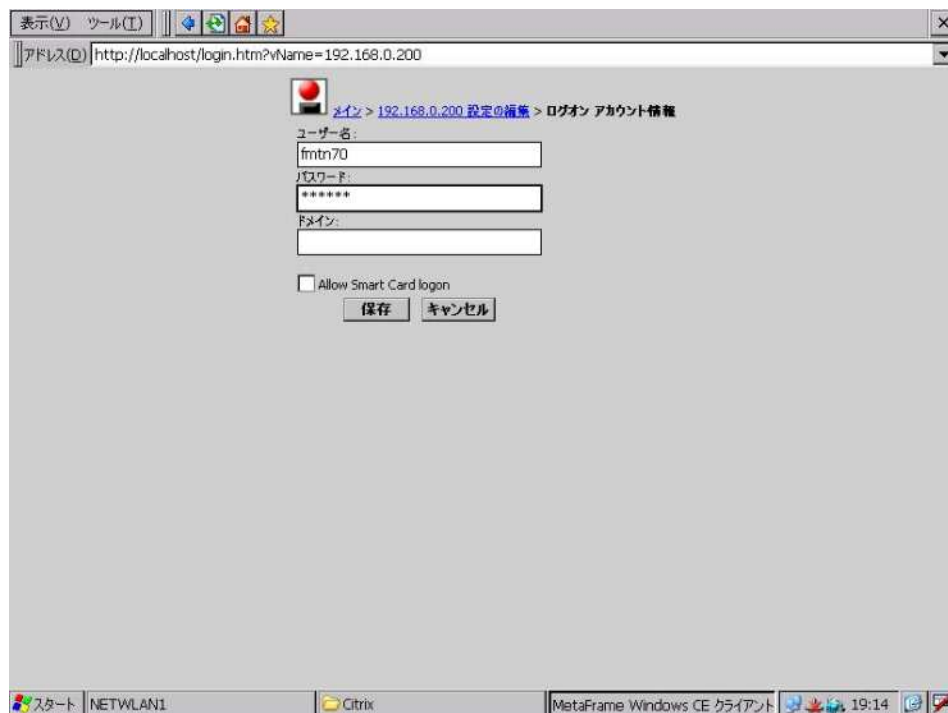
- ④ メインの画面が表示されますから、編集を押下します。



⑤ 設定の編集の画面が表示されますから、必要な情報を編集します。



⑥ ログオンアカウントの編集の例です。編集が終われば「保存」を押下してください。



⑦ メインの画面で「接続」を押下すると、サーバーに接続されます。

⑧ ログアウト後、必ずレジストリを保存してください。

HKEY_CURRENT_USER¥Software¥Citrix¥ICAShell¥Profile に UniqueID というキーが作成されます。このキーは端末の識別のための重要なキーですから、ここで必ずレジストリを保存してください。

(4) Citrix ICA クライアントの自動起動

① (3) 項のように接続を行うと、インストールされた Citrix フォルダの中に、ICA ファイルが作成されます。この例では、192.168.0.200.ica というファイルが作成されます。このファイルを wficace.exe により起動します。手順は、NORFlash フォルダの BATCMD.BAT ファイルを以下のように編集します。

Start△¥NORFlash¥citrix¥wficace.exe△¥NORFlash¥citrix¥192.168.0.200.ica

② 電源 OFF/ON により、Citrix ICA クライアントが自動起動されます。

付録4 アプリケーション開発

アプリケーションは、以下のツールで開発します。

1. Embedded Visual C++ 4.0 SP4 以上

本開発ツールは Microsoft のホームページからダウンロードできます。

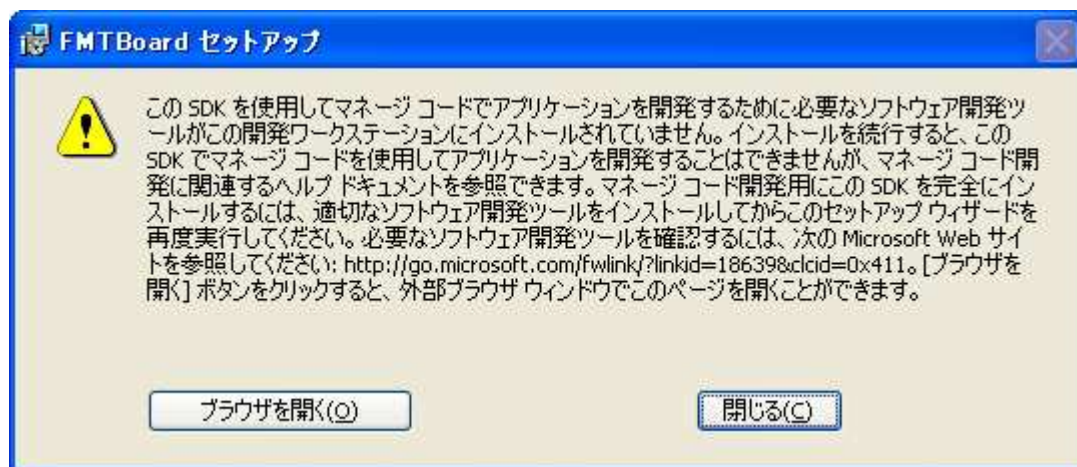
Embedded Visual C++ 4.0（日本語版）および Embedded Visual C++ 4.0 SP4（日本語版）が必要です。

開発には Pleiades GX 用の SDK が必要ですが、SDK については弊社から配布しております。今後は弊社ホームページからダウンロードを計画しております。

また、Microsoft の SDK であれば、STANDARD_SDK5.0 となります。但し、これは 2006 年 9 月現在では、英語版だけがダウンロードできます。PlatformBuilder 5.0 をお持ちの方は、CD の中に含まれています。

インストール方法は下記のとおりです。以下 Embedded Visual C++ 4.0 を EVC4 と記述します。

- ① EVC4 日本語版をダウンロードします。ファイル名はJA_eVC4.exeです。なおこの際ダウンロードサイトにCDキーが表示されていますのでこれを控えておきます。
- ② EVC4SP4日本語版をダウンロードします。ファイル名はevc4sp4JPN.exeです。
- ③ 各exeファイルをパソコン上で実行すると、解凍されます。
- ④ EVC4 日本語版をインストールします。JAEVC40というフォルダのSETUP.exeを起動することによります。CDキーの入力が必要になりますから、①で入手した値を入力します。
- ⑤ EVC4SP4日本語版をインストールします。eVC40SP4のDISK1のsetup.exeを起動することによります。
- ⑥ パソコンの再起動を行います。
- ⑦ FMTのSDKをインストールします。FMTBoard_SDK.msi を右クリックし、installを選択することによります。この際次のような表示が行われる場合があります。これは、VisualStudio 2005がインストールされていない場合に表示されるものですが、EVC4で開発する場合は、VisualStudio 2005は必要ありませんので、そのまま「閉じる」をクリックしてください。インストールが続行されます。



2. VisualStudio2005

VisualStudio2005により、C/C++、VB.NET、C#などの言語でアプリケーション開発ができます。

C/C++の開発にはPleiades GX用のSDKが必要ですが、SDKについては弊社から配布しております。今後は弊社ホームページからダウンロードを計画しております。

- ① /C++で開発する場合、プロジェクトの種類でスマートデバイスを選び、プラットフォームの選択でFMTBoardを選択してください。
- ② VB.NETやC#の場合は、プロジェクトの種類でスマートデバイスのWindowsCE5.0を選択してください。

3. HTML

本装置は、IE（インターネットエクスプローラ）については、コンポーネントとしてポケットインターネットエクスプローラを組み込んでいます。IEの機能としては4.0以下の機能になります。またJscriptに関しても殆ど動作致しません。

付録5 注意点

1. 設定 (レジストリ) 保存について

Pleiades GX はバッテリーバックアップを前提としていない為、メモリ上にファイルを展開した場合、レジストリ情報を追加した場合に電源を OFF/ON すると、これら全ての情報が削除されます。

ファイルについては保持させることは不可能ですが、設定情報 (レジストリ) の保存は、レジストリ保存ユーティリティにより行うことが出来ます。

初期化を行う場合は¥NORFLASH フォルダ内の ClearRegistry.exe を実行した後、電源を OFF/ON してください。

利用されるアプリケーションによっては、レジストリの情報が必要なものもあります。インストール後や、アプリケーション利用後、設定の保存をし忘れることの無いように注意してください。

特にターミナルサーバクライアントや Citrix ICA クライアント等は、アプリケーションを実行した後にレジストリを登録しています。これらの場合は、最初にサーバーから情報を取得いたしますので、アプリケーションを正常に実行 (接続)、終了させた後にレジストリを保存する必要があります。ライセンス情報を保持し忘れると、二度と同じ情報を取得できなくなります。ご注意ください。

2. シリアルポートへのケーブル接続について

電源を供給している際に、電源投入時以外にケーブルを挿した (抜いた) 場合、リセットがかかる場合があります。ケーブルを抜き差しする場合は電源を OFF にしてください。

3. ドライバのインストールについて

ドライバをインストールした場合、基本的には Windows フォルダにファイルが展開されます。レジストリは登録することが可能ですが、ファイルを保持することが出来ません。その為、Windows フォルダ等メモリに展開されるファイルがある場合は、全てのファイルを NORFLASH 等保持できるメディアにコピーし、OS 起動時にそれらのファイルをコピーするように BATCMD.BAT に記述してください。

但し、ドライバによっては、あらかじめ OS に組み込んでおく必要があるものもあります。その場合は Pleiades GX の標準システムでは対応できませんので、ご了承ください。

4. アプリケーションの実行、終了の繰り返しについて

アプリケーションを実行、終了という操作を頻繁に繰り返すと、メモリを少しずつ消費していきます。この操作を頻繁に行わないで下さい。

5. 内蔵FROMへのファイル書き込みについて

FROMは書き込み回数の制限があります。頻繁にファイルの書き込みを行うと、寿命を短くします。内蔵FROMへの書き込みは必要最低限にしてください。

空白頁

使用許諾契約書

重要

以下のライセンス契約書を注意してお読みください。

本使用許諾契約書（以下「本契約書」といいます）は、お客様（個人または法人のいずれであるかを問いません）とお客様が入手された特定の目的で使用されるコンピュータ装置（以下「本システム」といいます）の製造者（以下「本製造者」といいます）との間に締結される法的な契約書です。

本システムには、特定のマイクロソフト ソフトウェア製品（以下「本ソフトウェア」といいます）がインストールされています。本ソフトウェアは、コンピュータソフトウェア、それに関連した媒体、マニュアルその他の印刷物を含み、「オンライン」または電子文書を含むこともあります。

本ソフトウェアをインストール、複製、または使用することによって、お客様は本契約書の条項に拘束されることに承諾されたものとします。

本契約書の条項に同意できない場合、本製造者および Microsoft Corporation（以下「マイクロソフト」といいます）は、お客様に本ソフトウェア使用または複製のいずれも許諾できません。そのような場合、未使用の本ソフトウェアについての代金の返還手続きに関しては本製造者に速やかにご連絡ください。

ソフトウェア製品ライセンス

製品名 : Microsoft Windows CE5, 0
バージョン : 日本語版
ライセンス数 : Pleiades GX 1 台につき 1 ライセンス

本ソフトウェア製品は、著作権法および著作権に関する条約をはじめ、その他の無体財産権に関する法律ならびに条約によって保護されています。本ソフトウェア製品は許諾されるものであり、販売されるものではありません。

1. ライセンスの許諾

本契約書はお客様に以下の権利を許諾します。

・ソフトウェア

お客様は、Pleiades GX 上にインストールされた本ソフトウェアを使用することができます。

・アプリケーションの共有

アプリケーションが本システム上に1つだけインストールされていても、本ソフトウェアはアプリケーションを本システム上に2つ以上分けることを可能にする技術を含んでいるかもしれません。お客様はお客様のアプリケーションの使用許諾契約を参照するか、アプリケーションのライセンサーにより許されるかどうかアプリケーションのライセンサーに連絡してください。

・記憶装置／ネットワークの使用

もし本ソフトウェア製品をネットワークのサーバーから本システムにインストールされる場合は、お客様はソフトウェア製品を使用する、または分配する個々のシステムのためのソフトウェア製品のライセンスを入手しなくてはなりません。ソフトウェア製品のライセンスは共有できず、違うシステム上で同時に使用することはできません。

・バックアップコピー

本製造者が、別の媒体に本ソフトウェアのコピーを本システムとともに提供していない場合に限り、お客様は本ソフトウェアのコピーを1部に限り作成することができます。お客様は、本ソフトウェアのコピーを保存することはできますが、これを本システム上の本ソフトウェアを復元する以外の目的で使用することはできません。

2. その他の権利および制限

・リバースエンジニアリング、逆コンパイル、逆アセンブルの制限

お客様は、本ソフトウェア製品をリバースエンジニアリング、逆コンパイル、または逆アセンブルすることはできません。

・本システム専用

本ソフトウェアは、1つの統合された製品として本システムとともに許諾されています。本ソフトウェアは、本システムとともにのみ使用することができます。

・レンタル

お客様は、本ソフトウェアをレンタルまたはリースすることはできません。

・ソフトウェアの譲渡

お客様は、本契約に基づいて、本システムの売却または譲渡の一部としてお客様のすべての権利を恒久的に譲渡することができます。ただしその場合、複製物を保有することはできず、本ソフトウェア製品の一切〈全ての構成部分、媒体、マニュアルなどの文書、アップグレードまたはバックアップコピー、および本契約書を含みます〉を譲渡し、かつ譲受人が本契約書の条項に同意することを条件とします。本ソフトウェアがアップグレードである場合、譲渡は本ソフトウェアの以前のバージョンも全て含んだものでなければなりません。

・解除

お客様が本契約書の条項および条件に違反した場合、マイクロソフトは、他の権利を害することなく本契約を解除することができます。そのような場合、お客様は本ソフトウェア製品の複製物およびその構成部分を全て破棄しなければなりません。

・単一の使用許諾契約

本ソフトウェアのパッケージには複数の言語または複数の媒体等この使用許諾契約のいくつかの形態を含んでいるかもしれません（例えばユーザードキュメントおよびソフトウェア）。この場合お客様はソフトウェア製品の中 の1つをコピーして使用することができます。

・輸出制限

お客様は本ソフトウェアを日本またはアメリカ合衆国の輸出制限の対象である国、個人、法人あるいはエンドユーザに輸出または再輸出しないことに同意したものとします。特に日本およびアメリカ合衆国が商品もしくはサービスを禁止または制限している以下に対して本ソフトウェア製品を輸出または再輸出しないことに同意されたものとします。(i)現在規制が行われている国はキューバ、イラン、イラク、リビア、北朝鮮、スーダン、およびシリアを含みますが、これらに限定されません。または、国外にいるかかる国の国民で、製品を送付、送信、あるいは輸送しようとするもの、(ii)本ソフトウェア製品またはその一部を核兵器、化学兵器または生物兵器の設計、開発、または生産に使用することのあるエンドユーザ、または(iii)アメリカ合衆国連邦機関により輸出入取り引きを禁止されているエンドユーザ。

3. アップグレードおよび RecoveryMedia

・本ソフトウェアが、本システムとは別の媒体で本製造者によって提供され、かつ「For Upgrade Purposes Only」とラベルがはられていた（以下「本アップグレードソフトウェア」といいます）場合、お客様は、本システム上にインストールされていた本ソフトウェアのコピーと交換して本システムに本アップグレードソフトウェアのコピー1部をインストールし、および本契約書の第1条に従って本アップグレードソフトウェアを使用することができます。

本製造者より、本契約書の上部に本アップグレードソフトウェアの追加コピーの許諾数が示されていること、あるいは本製造者より、本アップグレードソフトウェアの許諾された各追加コピー用のシリアル番号のシールが提供されていることを条件に、お客様は、本アップグレードソフトウェアのコピー1部を使用して、本システムと同じブランドおよびモデルであって、本ソフトウェアの同じバージョンおよび言語版の正当にライセンスされたコピーを含んだ追加のシステム（以下「本追加システム」といいます）上に、本契約書の上部に示されている、あるいはシリアル番号のシールの数を上限として、本アップグレードソフトウェアのコピーをインストールすることができます。

本契約書の上部に本アップグレードソフトウェアの許諾された追加コピーの数が示されておらず、かつ本製造者よりシリアル番号のシールが提供されていない場合、お客様はアップグレードソフトウェアの追加コピーを作成、または本追加システムへインストールすることはできません。

・本ソフトウェアが、本システムとは別の媒体で本製造者によって提供され、かつ本ソフトウェアに「Recovery Media」というラベルが貼付されていた場合、本契約書第1条に記載されている保存を自的とした本ソフトウェアのコピーを作成することはできません。その代わり、お客様は、本ソフトウェアの同じバージョンおよび言語版の再インストールまたは復元するためにのみ「RecoveryMedia」を使用することができ、本契約書第1条に従って再インストールまたは復元した本ソフトウェアを使用することができます。お客様は「RecoveryMedia」の1ユニットを、本追加システム上の本ソフトウェアの復元または再インストールのために使用することができます。

4. 著作権

本ソフトウェア（本ソフトウェアに組み込まれたイメージ、写真、アニメーションビデオ、音声、音楽、テキスト、「アプレット」を含みますが、それだけに限りません）、付属のマニュアルなどの印刷物、および本ソフトウェアの複製物についての権限および著作権は、マイクロソフトまたはその供給者が有するものです。お客様は、本ソフトウェアに付属のマニュアルその他の印刷物を複製することはできません。本ソフトウェア製品を使ってアクセスされるコンテンツについての権原および無体財産権は、各コンテンツ所有者の所有物であり、著作権法およびその他の無体財産権に関する法律ならびに条約によって保護されます。本契約のもとに特に規定されていない権利は全てマイクロソフトに留保されます。

5. 製品サポート

本ソフトウェアの製品サポートは、マイクロソフトまたはその子会社が提供するものではありません。製品サポートに関しては、本システムのマニュアルなどの文書にある本製造者のサポート案内をご参照ください。また、本契約に関してのご質問、またはその他の理由による本製造者へのご連絡には、本システムのマニュアルなどの文書にある住所をご参照ください。

6. 限定保証

・本製造者は、本ソフトウェアが付属の製品マニュアルに従って実質的に動作しない場合に、お買い上げ後90日間に限り保証します。本ソフトウェアについてのいかなる黙示の保証についても90日間に限ります。いかなる場合もマイクロソフトおよびその子会社は、お客様に対して直接責任を負うものではありません。

・本製造者およびその供給者のすべての責任、およびお客様への保証方法は、本製造者の選択により、以下のいずれか1つとなります。

（a）お客様がお支払いになった金額の返還。

（b）この保証を満足せず、領収書のコピーとともに本製造者へ返品された本ソフトウェアの補修または交換。

本ソフトウェアの不具合が、事故、お客様の故意もしくは過失、誤用その他異常な条件下での使用によって生じた場合には、保証の責任を負いません。

本ソフトウェアの交換または補修後の製品の保証に関しては、交換補修前の本ソフトウェアの保証期間の残存期間の満了日、または交換、補修後の製品の引き渡し後30日の満了日のいずれか遅く到来する日までとします。

・その他の保証

上記に示した限定保証を除いては、本ソフトウェアはエンドユーザーに対して現状のまま提供されるものであり、明示たると黙示たるとを問わず無体財産権についての非侵害保証、商品性の保証あるいは特定目的に対する適合性の保証など一切の保証をいたしません。本ソフトウェアの品質および動作についてのリスクはお客様が負うものとします。

・間接的損害の保証

いかなる場合においても、本製造者およびその供給者は、本ソフトウェアの頒布、使用または動作からエンドユーザーに生ずるいかなる他の損害（通常損害、特別損害、事業利益の損失、事業の中断、事業情報の損失またはその他の金銭的損害を含みますがこれらに限定されません）に関して、一切責任を負わないものとします。

7. JAVAサポートについての注意

本ソフトウェア製品に、JAVAでかかれたプログラムのサポートが含まれていることがあります。JAVAテクノロジーは、不具合に対して自動的に対応できる機能または性質をもつものではなく、万一不具合があった場合に、死亡、人身障害、もしくは重大な物損または環境破壊を直接もたらす可能性のある、原子力発電所の操業、航空機の航行、通新システム、航空交通管制、生命維持装置、兵器システムなどの危険な環境におけるオンライン制御装置として設計、製造されたものではなく、そのために使用、または販売されるものではありません。

本契約は日本国の法律に準拠します。

本契約書に関して、またはその他不明な点等がございましたら本製造者へお問い合わせください。

ご意見記入用紙

お客様各位
説明書に関するご意見、ご要望、又は内容不明確な部分
について具体的にご記入のうえ、担当営業、担当S Eに
お渡しください。

ドキュメント番号	6 0 0 9 2 2 1 - 0 0 3										
ドキュメント名	Pleiades GX FMT-N70CE50M-2 オペレーションマニュアル										
<table border="1"> <tr> <td>お客様 ご提出日</td> <td>年 月 日</td> </tr> <tr> <td>ご 住 所</td> <td>〒</td> </tr> <tr> <td>貴 社 名 所 属</td> <td></td> </tr> <tr> <td>お 名 前</td> <td></td> </tr> </table>				お客様 ご提出日	年 月 日	ご 住 所	〒	貴 社 名 所 属		お 名 前	
お客様 ご提出日	年 月 日										
ご 住 所	〒										
貴 社 名 所 属											
お 名 前											
ペ ー ジ	行	修正区分	内 容								

修正区分 ①ご意見、要望 ②内容不明確（まちがい、説明不足、用語の不統一、誤字脱字）③その他
ご協力ありがとうございました。

営 業 部 員 S E 記 入	所 属		担 当		内 線	
--------------------	-----	--	-----	--	-----	--

ドキュメント 担 当 記 入	担 当		受付日	年 月 日	受付番号	
-------------------	-----	--	-----	-------	------	--

保護シート

Pleiades GX
FMT-N70CE50M-2
オペレーションマニュアル

2009年 3月 2日 2版

日本アビオニクス株式会社
〒141-0031
本社 東京都品川区西五反田8丁目1番5号
五反田光和ビル
TEL (03) 5436-0600 (代表)

©NIPPON AVIONICS CO., LTD.
日本アビオニクス株式会社の許可なく複製・改編などを行う
ことはできません。
また、本書の内容は、改編の為、予告なく変更すること
があります。